

## ミュージズ No. 34 平和のための博物館・市民ネットワーク通信

発行:2015年11月

編集:山辺昌彦、山根和代、安斎育郎

イラスト:戸崎恵理子

事務局:戦争と平和の資料館ピースあいち 宮原大輔

住所:〒465-0091 名古屋市名東区よもぎ台 2-820

Tel & Fax: 052-602-4222

### 「中帰連平和記念館」近況

#### 「NPO・中帰連平和記念館」

事務局長・理事 芹沢昇雄

昨年のノグンリ『国際平和博物館会議』参加後、今年は戦後70年ということで記念館にも中国中央TV、香港フェニックスTV、吉林TV、上海東方TV、人民中国などの中国メディアを始め、オランダ・ハーグの「正義のための国際研究所」、朝日新聞・・・など多くのメディアが来館取材しました。

残念ながら戦争体験者の元「中帰連」の皆様は多くが鬼籍に入り、ご健在の方は首都圏でも数人となり、しかも、聴き取りも困難な状況で、今後ますますこの記念館にの役割が重くなると思います。

理事会を年4回開きその午後に毎回開いている『中帰連に学ぶ会』を一般公開し「学習会」を開いています。また総会の午後には「講演会」を開き、今年6月13日の総会には45年8月14日に「責任を取る」と朝日新聞をたった一人辞したむのたけじさん(100歳)に講演をお願いしました。むのさんは大変お元気でTV出演もされていますが、記念

館の講演でも机を叩いて現状の政治、社会に怒っていました。むのさんは親子で「記念館会員」に登録下さっています。理事会、総会で「安保関連法案」に反対する声明を

全会一致で採択し、安倍首相や衆参両院議長、各メディア、友好団体などに郵送しました。



erico

### アクティブミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」(wam)

館長 池田恵理子

2015年はwamの開館から10年という節目の年にあたります。通常なら、感謝の記念イベントなどに知恵を絞らなければならないところですが、戦後70年にして「戦争ができる国」を目指す安倍首相が、違憲の集団的自衛権の行使を可能にする安全保障関連法を成立させるという暴挙に出ました。民主主義と平和主義を脅かすこの異常事態に、黙ってははいられません。安倍首相は「あの戦争はアジア解放の聖戦だった」「慰安婦に強制連行の証拠はない」と主張してきた政治家です。wamは当初から戦争法案反対

の集会や声明などに連帯・賛同してきましたが、「国会 10 万人・全国 100 万人大行動」の 8 月 30 日は臨時休館日にして wam のバナーを作って集合し、皆で国会包囲の抗議行動に参加しました。

7 月からは第 13 回特別展として、「アジア解放の美名のもとに～インドネシア・日本軍占領下での性暴力」展の開催を始めました。ただ、運営委員が総力あげて取り組んで昨年 11 月から設置した「朝日新聞バッシング」に猛進する読売新聞の「慰安婦」報道検証の壁は、好評につき展示を続けています。「慰安婦」報道で出鱈目な誤情報を平気で流すメディアや、「慰安婦」パネル展に公的施設を使わせない地方自治体などへは随時、抗議の声をあげてきました。特に偏向報道が著しい NHK の「政府広報機関化」は目に余るので、「慰安婦」問題を否定する会長への辞任要求も含めてジャーナリストや市民の団体と連帯し、NHK 玄関前での集会や経営委員会への申し入れを行いました。

今年には日本の敗戦と植民地からの解放 70 年にあたり、アジアの国々で「慰安婦」問題への取り組みが活発化しています。5 月に韓国・ソウルで開かれた第 13 回日本軍「慰安婦」問題アジア連帯会議では、11 カ国の支援団体とともに問題解決に向けた日本政府への働きかけを協議しました。wam は前年からこの連帯会議で、河野談話後に発見された膨大な数の公文書の集約に取り組んできたので、これらの館内での閲覧とウェブサイトへのアップも始めています。

また中国の山西省では、「抗日戦争勝利 70 年」を記念して省都・太原に戦争記念館を新設しました。そこでは、日本の市民団体による性暴力パネルの常設展示が準備中です。展示パネルは wam の中国展で制作したパネルを中国向けに作り直したもので、wam は協力団体として関わっています。

しかし wam は目の前の政治課題に追われているばかりではありません。「慰安婦」

裁判が行われなかったこともあって、あまり知られてこなかったインドネシアでの性暴力被害展は多くの来館者を集めてきました。10 月には、世界的に高い評価を受けているオランダの写真家、ヤン・バニングの『インドネシアの日本軍「慰安婦」』展を開催し、シンポジウムも行います。インドネシア展は来年の 6 月までやっています。ぜひ、お立ち寄りください。

## 開館 8 周年、この間の記念講演を振り返って

山梨平和ミュージアム 浅川 保

2007 年 5 月に山梨平和ミュージアム (YPM) が開館してから今年で 8 年余が過ぎた。この間、展示の他に、毎月、講演会、証言を聞く会等を行ってきた。そして、6 月には、毎年、～年記念講演会として、著名な講師をお呼びして講演会を行ってきた。これまで 9 回の記念講演の講師は、以下の通りである。

2007 年 5 月 26 日 開館記念講演 諸星 廣夫氏 (元日航機長)

8 年 6 月 22 日 1 周年 安齋 育郎氏 (立命館大国際平和ミュージアム館長)

9 年 6 月 21 日 2 周年 早乙 女勝元氏 (東京戦災資料センター館長)

10 年 6 月 20 日 3 周年 井出 孫六氏 (作家)

11 年 6 月 19 日 4 周年 米田 佐代子氏 (らいちょうの家館長)

12 年 6 月 24 日 5 周年 辻井 喬氏 (作家)

13 年 6 月 16 日 6 周年 色川 大吉氏 (歴史家)

14 年 6 月 15 日 7 周年 水島 朝徳氏 (早大教授)

15 年 6 月 21 日 8 周年 保阪 正康氏 (ノンフィクション作家)

いずれの会も 100 名～300 名が参加し、盛況裡に終わった。年に 1 度、記念講演として広く呼びかけ、大きく成功させたことは、ミュージアムの紹介、PR の意味からも大きな意義があったかと思う。

## 竹内浩三展を開催 戦争と平和の資料館ピースあいち

ピースあいち事務局長 宮原大輔

戦争と平和の資料館ピースあいちでは 2015 年 7 月 21 日から 8 月 30 日まで戦後 70 年のメイン企画として「戦争と若者 竹内浩三の詩とその時代展」を開催しました。

竹内浩三は三重県宇治山田市（現伊勢市）出身の詩人。「戦死やあはれ 兵隊の死ぬるやあはれ 遠い他国でひょんと死ぬるや……」（「骨のうたう」）が知られています。生きることの楽しさ、喜び、意味を多くの詩文の中に残しましたが、1945 年 4 月、フィリピン・ルソン島で戦死しました。23 年の生涯でした。そして戦後 70 年でもありました。

展示会は彼の遺した同人誌、詩、日記、マンガなどの資料展示（42 点）と、短い命の日々のなかでの、彼の喜びや悲しみをパネル構成（50 枚）で紹介し、戦後 70 年を迎える本年、今の私たちの生き方を考え、日本を見つめなおすような展示にしようとするものでした。

開館 5 周年から始まった 2012 年の「原爆の図展」、2013 年の「はだしのゲン展」、2014 年の「戦争と若者展」に続く位置づけでもありました。

入館料以外に入場料が必要な有料企画としました（大人 500 円、小中高生 200 円、入館料を含む）。企画展としては「地味」なテーマとなるので、どれほどの来館があるのか心配されましたが、2 千人を超える方々が見に来られました。関連企画で『ぼくもいくさに征くのだけれど』の著者稲泉連さ

んの講演会がありました。竹内浩三の地元伊勢の方々や研究者の方々も集まられて、満席となりました。

## 立命館大学国際平和ミュージアム 国際平和ミュージアム副館長 山根和代

立命館大学国際平和ミュージアムで開催した展示・活動の一部を紹介します。

【特別展】戦後 70 年平和企画 山本宗補写真展「戦後はまだ・・・刻まれた加害と被害の記憶」

◎ 講演会&ギャラリートーク

講師：山本宗補

日時：5 月 3 日（日）「加害と被害の重層構造 —日本人の戦争体験をとらえ直す」

<ギャラリートーク> 15:00～15:30

◎ 講演会:

講師：林博史（関東学院大学教授 現代史）

日時：5 月 30 日（土）13:30～15:30

● 巡回：世界報道写真展 2015 京都：9/9～10/4

公開記念講演会：『報道写真家の仕事 —マス・メディアの伝えない「真実」沖縄・辺野古、高江の現状—』

日時：2015 年 9 月 19 日（土）

講師：森住 卓氏（もりずみ たかし：フォトジャーナリスト）

## 【ミニ企画展】

医の倫理・過去・現在・未来～日本医学会総会 2015 関西に向けて

絶望の島から希望の島へ「クリオン島」—

ハンセン病と差別の中に生きる人々—

日本平和博物館会議戦後 70 年共同展示

無言館／京都館—いのちの画室(アトリエ)

開設 10 周年企画 手島守之輔・伊藤守正

—ふたりの被爆画学生の絵—展

## 各種イベント

夏休み親子企画「へいわ」ってなに？

朗読企画「声に出す平和への祈り～伝えよう未来へ、平和の守り手として～」

## 戦後を語る 70のカタチ

2015年10月20日(火)～12月13日(日)

戦後70年、日本は戦争を放棄して平和国家となりました。しかし今、私たちはあの戦争とどのように向き合ってきたのか、その後の社会をどのように築いてきたのかを問われています。2015年度秋季特別展『戦後を語る70のカタチ』では、戦後70年にちなみ、私たちにそうしたことを問いかける70件の資料を展示します。

満州事変から15年に及んだ戦争に敗れた1945年、日本は多くの生命と財産を失い、私たちは今もそこからの復興の歩みを記憶にとどめています。敗戦直後の焼け野原の風景、テレビやラジオなどのように戦後の日常を彩り生活を変えた品々、東京オリンピックや万博のような華やかなイベントなどは多くの人々の記憶に今なお鮮明に浮かび上がります。また、戦犯裁判、引き揚げ、戦後開拓など、戦争の影響や戦前から継続する政治や経済の流れを問う歴史的資料、反核運動など戦争への反省の立場から平和を求める市民運動を伝える資料など、戦後には、それを語る多様なカタチ(=資料)があります。戦後70年に当たる本年、これらの資料を通して、戦後の時代と出来事について考える機会となることを目的として開催します。⇒ 詳細はホームページ

## 岡まさはる記念長崎平和資料館

理事長・高實康稔

2015年度上半期の主な活動について報告します。

- ・4月1日：機関紙「西坂だより」77号発行
- ・4月16日：韓南大学にて、理事長が「強制連行と韓国・朝鮮人被爆者問題」と題して講演、軍艦島での強制労働生存者崔璋燮(チェ・チャンソプ)氏が来場証言

・7月20日：「岡正治さんに学ぶ会」、岡先生の活動に対する報道を検証し、討論

・8月9日：長崎原爆朝鮮人犠牲者追悼早朝集會に全面協力、九州朝鮮高級学校の歌舞団が追悼の歌と舞踊を披露、韓国からも多数の参加者

・8月14～20日：第13次「日中友好希望の翼」訪中団が南京と唐山を訪問

※8月15日、韓国誠心女子大学が韓国語・日本語・英語表記の当館リーフレットを独自作成のうえ、1万5千部を提供。感謝をこめて、全来館者に手渡しています。

※設立20周年を迎え、外国からの訪問が増加するとともに、「明治日本の産業革命遺産」をめぐる、海外からの取材が急増しています。

<http://www.d3.dion.ne.jp/~okakinen>

## ひめゆり平和祈念資料館

学芸課 古賀 徳子(こが のりこ)

今年3月、証言員(元ひめゆり学徒)が学校団体などを対象に行ってきた「戦争体験講話」が原則として終了しました。戦後70年ということもあり、大きなニュースとなりました。「講話終了」が「証言員の引退」と誤解されたこともありましたが、元ひめゆり学徒の展示室での証言活動は現在も続けています。そして、4月からは職員による「次世代の平和講話」がスタートしました。「次世代の平和講話」では、約15分の元ひめゆり学徒の証言映像を見てもらった後、学徒が当時どのように考えていたのか、戦後、生き残った学徒がどういう思いを抱いたのかといった、証言員の気持ちについても説明しています。

2015年7月11日には、戦後70年企画「戦跡めぐり—ひめゆり学徒隊の足あと」を開催し、12～79歳の64名が参加しました。資料館としては19年ぶりの「戦跡めぐり」で、19年前は元ひめゆり学徒が概要説明か

ら戦跡の案内、証言まで、全てを担当しましたが、今回は、証言は元ひめゆり学徒が、概要説明や戦跡の案内は職員が行いました。参加者からは、ひめゆり学徒隊の動きを実際にたどることで理解が深まった、証言員から直接聞けてとても感動したとの感想が寄せられました。さらに、多くの新聞やテレビで取り上げていただいたことで、全国の方に、元ひめゆり学徒の思いと資料館の活動を知らせる機会になったと思います。

8月13・14・15日には夏休み特別企画として「元ひめゆり学徒の戦争体験講話」を開催し、3日間を通じて424名にご参加いただきました。参加者からは、「貴重なお話を聞くことができよかった」「子どもたちに伝えたい」などの声が寄せられました。8月には他に「教員向け講習会」、「教員のための展示ガイドツアー」を行いました。

9月19日～23日には「映像でたどる ひめゆりをめぐる沖縄戦の記憶—ひめゆりの映像作品上映会」を開催します。当館が企画展のために制作した映像作品など10作品を上映します。12月からは、これまであまり取り上げてこなかった教師たちに焦点を当てた、戦後70年企画展「ひめゆり学徒と教師たち」(仮)を開催する予定です。

Tel:098-997-2100 Fax:098-997-2102

<http://www.himeyuri.or.jp>

### 北海道立文書館：札幌市

文書館開館30周年記念企画展「戦後70年、文書でたどる太平洋戦争と北海道」が2015年7月1日～31日の会期により1階5号会議室で開催されました。主に北海道立文書館が所蔵する資料を使い、北海道という地域や道民の暮らしに焦点をあてて、戦争とその時代を振り返るものでした。この展示会をきっかけに、戦争がいかにかに人々の暮らしをこわすかを再確認し、二度と戦争はしないという気持ちを新たにしてもら

うために開いたものです。文書館は、社会のありようが記録された資料を将来に伝えることで、民主的社会の維持発展に寄与しています。以下のような内容を伝える展示構成でした。「戦争の足音」では、日本は、1915年の対華21か条要求などにより、中国東北部の満州と東部内蒙古に鉄道・鉱山・商租権などの権益を得ました(満蒙特殊権益)。反日の気運が高まると、権益が失われるのを恐れ、1931年、柳条湖事件を起こし(満州事変の始まり)、翌年、満州国を建国させました。国民は、事件が日本側の謀略であることを知らされなかったため、一連の動きを日本の国益を守るものとして熱狂的に支持しました。1936年に陸軍特別大演習で来道した天皇を道民は熱烈に歓迎しましたし、翌年に日中戦争に突入した際も、短期決戦で日本が勝利すると信じ、戦勝を行列をなして祝うなど、楽観ムードでした。しかしそうした明るさの裏で、正しい情報を求め思ったことを言える権利が、政府・軍部の権力や、民衆自身の雰囲気により、抑制されていきました。「北海道から満州へ」では満州事変(1931)の後、関東軍や拓務省、のちに内閣の政策により、満州に農業移民集団が送り出され、終戦までに合計27万人余といわれる人々が移住しました。移民の構成は、土地を求める農家の二・三男が中心でした。出身地の農法は満州の気候風土に合わず、経営はなかなか安定しませんでした。そこで、日中戦争開戦後の1938年以降、北海道農法が導入されることとなりました。北海道農法が満州に適合することを証明するため、また他の農家を指導するため、北海道からは多くの篤農家や農業技術者が満州に渡りました。「戦時下の暮らしと労働」では、戦時下、国民には「挙国一致」「尽忠報国」「堅忍持久」をスローガンとする精神的統一が求められ、戦争遂行のためにあらゆる統制に耐えることが当然の義務となりました。北

海道では、ことあるごとに「屯田兵魂」が語られ、強固な精神力が鼓舞されます。一方、働き盛りの男子が戦場に送られることによる労働力不足を補うため、軍需産業への職業転換が強制されたり、女子や学徒の動員が強化されました。加えて、1939年からは朝鮮人の移入が開始され、労働力不足がさらに深刻化する戦争末期には、中国人も含めた強制連行によって、道内の炭鉱や土木事業の維持が図られました。「恐れていた空襲」では、航空機が急速に発達した近代戦争では、空からの攻撃にいかにも備えるかが課題となり、各地で軍民あがての防空訓練が繰り返されるようになりました。1944年秋、恐れていた本土への空襲が始まります。北海道への空襲は、翌45年7月14日・15日に集中的に行われ、軍需工場のあった室蘭や道内各都市、青函連絡船などがあいついで攻撃を受けました。わずか2日間に、陸上と周辺海域あわせて3,000人近い死者を出したといわれています。「戦場へ」日中戦争が始まると、予備役兵や後備役兵の臨時召集があいつぎ、さらに戦争が長引くにつれて、訓練を受けていない者にまで召集令状（赤紙）が届くようになります。北海道出身の軍人・軍属たちが送られた戦地は、北はソ連国境から南は南部ニューギニアまで広範な地域に及びます。彼らのうち戦死・戦病死した兵士は、満州事変以降で6万3千人あまり。特に部隊が全滅した沖縄戦では、1万人以上の道内出身兵士が戦死しました。「終戦と千島」では、日本は、8月9日のソビエト連邦の参戦や原爆の投下により、14日の御前会議でポツダム宣言受諾を決定し、いわゆる終戦の詔書を発布します。翌15日に玉音放送で国民へその内容を伝え、日本は無条件降伏しここに終戦を迎えます。しかし、ソ連は、日本が降伏してから3日後の8月18日の占守島侵攻を皮切りに次々と千島へ上陸し、9月5日までには島々はすべてソ連に占領さ

れました。その当時、歯舞群島をはじめ北方四島には約1万7千人の日本人が住んでいましたが、一部はシベリアに抑留され、それ以外はソ連の命令で1948年までに日本へ強制的に引きあげさせられてしまいました。「北海道への進駐」では、日本はポツダム宣言の受諾により、米国を中心とした連合軍に占領されることとなり、軍の進駐は1945年8月28日から開始されました。9月8日にはマッカーサー元帥が東京に入り、10月2日には連合軍総司令部(GHQ)が設置され、日本の占領管理が始まります。北海道への連合軍進駐は、10月4・5日に開始され、5日には接收された札幌通信局局長室で日米代表による会談が開催されました。当時、道民は進駐軍に対して漠然たる不安と恐怖を抱いていました。会談に出席した熊谷北海道庁長官は「十分な誠意を持って進駐軍を迎えてほしい」との談話を新聞に発表し、道民に呼びかけました。しかし進駐軍が到着すると、懸念に反して規律正しい友好的な軍隊であり、進駐後一ヶ月ほどは事故らしい事故もありませんでした。「引揚者を迎えて」では、終戦当時、外地には軍人と民間人あわせて660万人以上の邦人がいました。彼らの大半は1946年秋ころまでに復員や引揚げを終えますが、ソ連管理区域となった樺太・千島からの本格帰還は、同年12月に始まります。北海道へは、特に樺太からの引揚者が大勢上陸しました。何世代にもわたって樺太で生活し、すでに内地に縁故者がいない場合が多く、彼らの再出発を支えることが北海道の大きな課題となりました。「戦後の緊急開拓」では、終戦後、外地からの引揚者と復員者で人口が急激に増えると、食糧危機と失業が深刻な問題となりました。政府は、全国で100万世帯を帰農させて開墾地を増やす計画を策定、その入植地として北海道の役割が大きく期待されます。しかし、道内で新たに開墾する土地は自然条件の厳しい場

所がほとんどで、資力の乏しい入植者には、その後長く開拓の苦勞を強いることとなりました。「おわりに」では、周辺諸国や対戦相手、そして自国の人びとに、甚大な被害を与えた戦争は終わりました。GHQは、日本を無謀な戦争に駆り立てた軍国主義と、それを支えた財閥や地主制などによる不平等、個人の尊厳を重視しない教育、上意下達の中央集権構造などを解体・再編することにより、自由で民主的な社会に改めようとししました。そうした後押しもあって、国民主権・平和主義・基本的人権の尊重・地方自治を柱とする日本国憲法が1946年に公布、翌年5月3日に施行され、農地改革、教育の民主化、地方自治なども進められました。現代の日本や北海道は、この民主化の上に成り立っています。

Tel : 011-204-5200

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/mnj/gyouji/tokubetsuten/kikakuten201501.htm>

### 岩内町郷土館：北海道

第3回企画展・終戦70周年記念企画展「岩内と戦争」が2015年7月7日～9月6日の会期で開催されました。「昭和20年7月15日岩内空襲」「郷土たより」など、岩内に関する戦争関係資料などを展示していました。

Tel& Fax : 0135-62-8020

<http://www.iwanaikyoudokan.com/kikaku.html>

### 江別市郷土資料館：北海道

戦後70周年記念企画ロビー展「木製戦闘機が作られた時代」が2015年7月18日～9月27日の会期によりロビーで開催されました。1945年、アジア・太平洋戦争の末期、江別で製作された木製の戦闘機がありました。その名はキ106。製作したのは王子航空機株式会社江別製作所。軍の命令で製紙工場から木製戦闘機の組み立て工場に転換

した工場でした。生産には国民学校高等科を卒業したばかりの幼年工をはじめ、学徒や女子挺身隊が全道各地から動員されました。平和への思いを新たにするために、郷土資料館が収蔵する関係資料によりこの時代を振り返るものでした。

Tel : 011-385-6466 Fax : 011-385-4944

<https://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/site/kyouiku/30103.html>

### 釧路市立博物館：北海道

企画展「戦後70年―戦争の中の暮らし」が2015年7月4日～9月27日の会期により1階マンモスホールで開催されました。館が所蔵する実物資料を通して、人々が戦争に駆り出され、残された人々はどのような暮らしをしなければならなかったのか、戦争をしていた時代の人々の暮らしを紹介する企画展でした。昭和に入って釧路のまちが広がる中、時代は戦争に向かっていき、開戦、アメリカ軍の空襲、そして終戦、復興へと向かうようすを実物資料・写真などで紹介していました。主な展示内容は、「広がるまちなみ」4代目幣舞橋の竣工記念写真など、「戦争への道」陸軍特別大演習に伴う釧路への行幸など「戦争の中の暮らし」切符制・配給制、物資の供出、戦費の調達など、「釧路空襲」空襲の概要、被災箇所の現在、「戦後の復興」昭和20年代のまちなみ写真など、「伝えられる戦争」当時を伝える記念碑・建造物など、「出征関係」軍隊手帳、奉公袋、ゲートル、日の丸寄せ書き、軍事郵便など、「暮らしの関係」常会資料、回覧版、衣料切符、配給票、債券等、愛国百人一首、SPレコードなど、「空襲関係」防空頭巾、鉄かぶと、機銃弾、被災した橋桁などでした。

Tel : 0154-41-5809 Fax :

0154-42-6000

<http://www.city.kushiro.lg.jp/museum/kikaku/2015/sengo70.html>

### 名寄市北国博物館：北海道

企画展「戦後 70 年記念展 戦時下の名寄と子どもたちに引き継ぐ平和」が 2015 年 9 月 5 日～27 日の会期によりギャラリーホールで開催されました。名寄からも多くの若者が戦地に向かい犠牲となりました。また、直接の戦災を受けなかった地域でも、様々な苦労や悲しみに見舞われました。当時の地域の姿を伝える、戦争体験者からの体験談、写真パネル、スケッチブックなど館所蔵の資料を展示し、戦時下の様子、教育、生活を紹介するものでした。戦時下の実態と平和の尊さを伝え、平和の継続を願って開かれたものです。構成は、市民が体験した戦争・戦時下の名寄・引き上げと戦後開拓・映像コーナーでした。

Tel : 01654-3-2575 Fax :  
01654-3-2575

<http://www.city.nayoro.lg.jp/section/museum/prkeql000000h0dq.html>

### 北斗市郷土資料館：北海道

「戦後 70 年、過去を伝え未来を考える」展が 2015 年 9 月 27 日までの会期で開催されました。戦時中の衣服、敵機が迫るニュースを伝える旧大野村広報紙、戦地から家族に届いた手紙、村民が駅前で出征兵を見送る姿や、戦闘機をモチーフにした神社祭りの山車の写真など、市民らから寄贈され、同館で収蔵している資料約 200 点を「戦地に赴いた人たち」「残された国民の生活」「戦時下の学校と子ども達」の 3 テーマに分けて展示していました。

Tel : 0138-77-8811  
<http://www.city.hokuto.hokkaido.jp/modules/gnavi/index.php?lid=9>

### 本別歴史民俗資料館：北海道

特別展「7 月 15 日本別空襲を伝える－昭和史から見る戦後 70 年」が 2015 年 7 月 10 日～8 月 16 日の会期で開催されました。

本別町の最大の悲劇「本別空襲」を、昭和史最大の戦争被害となった「広島・長崎の原爆」とともに振り返り、平和の大切さを後世に伝え残すために開かれたものです。

Tel : 0156-22-2141 Fax :  
0156-22-5112  
[https://www.town.honbetsu.hokkaido.jp/town/cat/post\\_21.html](https://www.town.honbetsu.hokkaido.jp/town/cat/post_21.html)

### 中泊町博物館：青森

「戦後 70 年－近：現代の戦争と銃後の暮らし」が 2015 年 4 月 25 日～6 月 28 日の会期で開催されました。

Tel : 0173-69-1111 Fax :  
0173-69-1115  
<http://www2.town.nakadomari.aomori.jp/hakubutsukan/>

### 八戸市博物館：青森

戦後 70 年特別展「かつて戦争の時代に－記憶を継承するために」が 2015 年 7 月 11 日～8 月 30 日の会期で開催されました。

関連して、講演会「青森県の空襲」が、2015 年 7 月 26 日に青森県史近現代部会専門委員の新井悦郎さんを講師に、2015 年 8 月 9 日に石橋カネさんを講師に「八戸空襲と防空監視隊勤務の体験について」が、いずれも 2 階の体験学習室で開かれました。また、講演会「八戸要塞と青い目の人形」が八戸市博物館副館長古里淳さんを講師に 2015 年 8 月 23 日に総合福祉会館で開かれました。

Tel : 0178-44-8111 Fax : 0178-24-4557  
[http://www.hachinohe.ed.jp/haku/saijih\\_tokubetu.html](http://www.hachinohe.ed.jp/haku/saijih_tokubetu.html)

### もりおか歴史文化館：岩手

テーマ展「戦争の記憶－戦後 70 年」が 2015 年 6 月 17 日～8 月 17 日の会期により 2 階常設展示室内のテーマ展示室で開催されました。二度とこのような戦争が起きぬように、戦争の悲惨さや平和の尊さにつ

いて次世代へと語り継ぐきっかけとするために所蔵する戦争に関する資料を展示していました。

Tel : 019-681-2100 Fax :  
019-652-5296

<http://www.city.morioka.iwate.jp/event/bunka/033447.html>

#### 岩手県立図書館：盛岡市

企画展「戦争の時代と岩手の人々」が2015年8月1日～9月23日の会期により、4階展示コーナーで開催されました。近代日本が経験した戦争について概説し、岩手の人々の戦争体験を、当時の新聞雑誌、郷土部隊史、従軍記、手記などで紹介していました。

Tel : 019-606-1730 Fax :  
019-606-1731

<http://www.library.pref.iwate.jp>

#### 仙台市博物館：宮城

2015年6月9日～9月13日の会期により、常設展の近代都市仙台コーナーで「軍都仙台―戦後70年」のテーマで、仙台城二の丸跡に設置された陸軍第二師団の動向や、戦争と仙台のかかわりなどについて展示していました。

Tel : 022-225-3074 Fax :  
022-225-2558

<http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum/jyousetsuten/>

#### 登米市歴史博物館：宮城

市制10周年・戦後70周年企画展「戦争とくらし―資料で振り返る戦中・戦後」が2015年6月27日～8月30日までの会期で開催されました。

Tel : 0220-21-5411 Fax :  
0220-21-5412

<http://www.city.tome.miyagi.jp/rekihaku/>

#### 米沢市上杉博物館：山形

企画展「戦後70年 昭和90年―忘れてはいけないこと―山本高樹ジオラマ展」が2015年7月24日～9月6日の会期で開催されました。沖縄戦の「ひめゆり学徒隊」や勤労奉仕する米沢の小学生たちのけなげな姿、造形作家山本高樹さんのジオラマ作品など、戦中、戦後の記憶を報道写真やジオラマでたどるもので、計約110点を展示していました。戦争を風化させないためにも親子で平和の尊さ、命の大切さを語り合う機会にしてもらうために開かれたものです。

Tel : 0238-26-8000

<http://www.denkoku-no-mori.yonezawa.yamagata.jp/>

#### 酒田市立資料館：山形

第192回企画展「戦後70年 戦時下の青春」が2015年6月27日～9月13日の会期で開催されました。戦争は、出征兵士とその家族の暮らしを翻弄し、戦況の悪化とともに、すべての国民に厳しい耐乏生活を強いていきました。大人だけでなく、現在の中高校生と同世代の少年少女たちも、食糧増産のための農作業や、軍需工場などでの労働に明け暮れました。また多くの少年たちが、軍人を目指し、あるいは満州開拓の夢を抱いて、酒田を旅立ちました。戦時下に生まれ育った彼らは、「今はつらくても必ず勝つんだ」と信じて、過酷な毎日を生き抜きました。今回の企画展では、酒田市内の各高校から提供された写真など、戦時下の学校生活を記録した貴重な資料を集めていました。豊かな画才を持ち、日本画家としての将来を期待されながら戦死した、酒田出身の岡部敏也の作品、遺品も展示していました。

Tel& Fax : 0234-24-6544

[http://www.city.sakata.lg.jp/culture/heritage/heritage\\_facility/eb03c180602.html](http://www.city.sakata.lg.jp/culture/heritage/heritage_facility/eb03c180602.html)

### 福島県立博物館：会津若松市

ポイント展「若松歩兵連隊」が2015年7月18日～8月21日の会期で開催されました。

Tel : 0242-28-6000 Fax :  
0242-28-5986

<http://www.general-museum.fks.ed.jp/>

### 南相馬市博物館：福島

戦後70年特別展「原町飛行場と戦争展」が2015年9月6日～10月12日の会期で開催されました。特別展では、陸軍飛行兵の訓練所であった原町飛行場のこと、そこで訓練した特攻隊員と地域住民との交流、空襲、集団疎開、そしてこの地から出征した方々とその家族の暮らしなど、戦時中の人びとの生活について紹介していました。飛行場では、原町区八牧家より寄贈された手紙などの特攻隊関係の資料を中心に、人びとの生活では、防空頭巾などの民俗資料や入営ののぼりなど軍隊生活に関する資料、そして当時の写真などを展示していました。いま、忘れられつつある悲劇の歴史を伝え、戦争によって亡くなった方々の想い、そして平和の尊さについて考える機会とするものでした。

Tel : 0244-23-6421 Fax :  
0244-24-6933

<http://www.city.minamisoma.lg.jp/index.cfm/24,0,137,html>

### 茨城県立歴史館：水戸市

戦後70年「戦時下の暮らし」が2015年7月23日～8月2日の会期で開催されました。戦後70年の節目をむかえ、再び戦争の悲劇が繰り返されることなく、平和を実現していくためには、平和の大切さや命の尊さ、戦争の悲劇さについてしっかりと認識することが大切です。そのため、当時の人々の暮らしを振り返り、防空頭巾やモンペなどの生活用品、千人針や鉄兜などの戦時下

を思わせる資料を展示し、また、生活の関する当時のデータをもとに、人々のくらしや健康に与えた影響などについて紹介していました。

Tel : 029-225-4425 Fax :  
029-228-4277

<https://www.lib.pref.ibaraki.jp/information/exhibition/2015/files/270723.pdf>

### 水戸市立博物館：茨城

企画展「戦後70年－戦争の記憶を未来へ」が2015年7月22日～8月30日の会期で開催されました。徐々に薄れゆく戦争の記憶を未来へと大切に伝えるために、戦争や空襲に関する資料を展示していました。

Tel : 0029-226-6521  
Fax : 029-226-6549

<http://shihaku1.hs.plala.or.jp/exhibition/988>

### 那珂市歴史民俗資料館：茨城

那珂市平和祈念事業「戦後70年の記憶」が2015年7月25日～9月6日の会期で開催されました。この戦争関係資料の展示会は二度と同じ過ちを繰り返さないよう、平和についてともに考えようと企画されたものでした。

関連して講演会「寺門治平日記と戦時下のふるさと」が2015年7月30日に中央公民館講座室で歴史民俗資料館長の仲田昭一さんを講師に開かれました。戦争体験者の話を聞く「戦争の体験を語り伝えよう」が2015年8月22日に総合センターらぼーの多目的ホールで開かれました。

Tel : 029-297-0080

<http://www.city.naka.lg.jp/news.php?code=1312>

### 日立市郷土博物館：茨城

ギャラリー写真展「日立の空襲と戦時下の生活」が2015年5月26日～7月26日

の会期により、2階ギャラリーで開催されました。戦時下の生活と戦災の悲惨さを写真パネル約40点で紹介していました。

Tel : 0294-23-3231 Fax :  
0294-23-3230  
<http://www.city.hitachi.lg.jp/museum/>

#### 龍ヶ崎市歴史民俗資料館：茨城

戦後70年企画「戦時収蔵資料展」が2015年8月5日～9月6日の会期で開催されました。収蔵する戦時関係の資料を展示紹介するとともに、戦時中に龍ヶ崎で起きた悲劇として、軍需工場羽田精機に勤務していた方の回想録や、アメリカ軍戦闘機P-51による駒柴第一国民学校の空襲、佐沼町のB-29墜落事故などについても伝えていました。

Tel : 0297-64-6227 Fax :  
0297-64-6360  
<http://www.city.ryugasaki.ibaraki.jp/filemcommission/info/2013091800181/>

#### 国土地理院地図と測量の科学館：茨城・つくば市

企画展「戦災からの復興－地図や写真でたどる復興の道のりと国土の変貌」が2015年3月10日～6月28日の会期により、2階特別展示室で開催されました。本企画展では戦災により焦土と化した東京をはじめ、広島、長崎、名古屋など、全国各都市の戦後復興の歩みや発展の様子などを地図や写真で振り返るものでした。

Tel : 0285-45-5331  
<http://www.gsi.go.jp/MUSEUM/p09.html>

#### 小山市立博物館：栃木

特別展「終戦70周年記念展－平和都市小山とヒロシマに残された70の資料」が2015年7月4日～8月30日の会期で開催されました。

Tel : 0285-45-5331

<https://www.city.oyama.tochigi.jp/kyoikuinkai/hakubutukan/>

#### 日光市歴史民俗資料館：栃木

企画展「戦後70年 戦争と庶民の暮らし」が2015年10月4日までの会期で開催されました。戦後70年を契機に戦争と平和について考えるために、今市高等実業女学校の生徒が制服を着たまま射撃訓練を行っている姿を撮った写真、防空監視廠の設置計画資料、出征する兵士に向けて友人や同僚が寄せ書きした日章旗、戦時中に市内で使われた教科書、生活雑貨などの、戦争に動員された人々や銃後の生活を守った人々の写真や資料を約100点展示していました。

Tel : 0288-22-6217 Fax : 0288-21-5565  
<http://www.city.nikko.lg.jp/bunkazai/guide/kyouiku/shiryoukan/>

#### 群馬県立文書館・前橋市

ロビー展示I「記録が語る昭和の戦争と県民の暮らし」が2015年7月11日～10月4日の会期で開催されました。収蔵資料のなかから、アジア・太平洋戦争と戦時下の県民生活の様子が伝わる資料を展示していました。

Tel : 027-221-2346 Fax :  
027-221-1628

<http://www.archives.pref.gunma.jp/>

#### 群馬県立図書館・前橋市

第2回終戦70周年企画「戦時下の群馬」が2015年7月3日～8月16日の会期により3階展示コーナーで開催されました。群馬県出身の堀越二郎・中島知久平に関連する資料を中心に、陸軍特別大演習や高崎の歩兵連隊など等の資料109点を展示していました。展示目録を作成しています。

Tel : 027-231-3008 Fax :  
027-235-4196  
<http://www.library.pref.gunma.jp/>

### 大泉町立図書館：群馬

企画展「戦後 70 周年記念 大泉町の戦中・戦後展」を 2015 年 8 月 12 日～16 日の会期により 1 階の視聴覚室で開催されました。町所蔵の戦争関連資料を展示していました。

Tel : 0276-63-6399 Fax :  
0276-63-0717

<https://www.town.oizumi.gunma.jp/10shisetsu/1289021812-5.html>

### みどり市岩宿博物館：群馬

第 59 回企画展「戦後 70 年 戦時下の記憶とくらし」が 2015 年 1 月 31 日～3 月 15 日の会期で開催されました。市内東町には、再び戦争の惨禍を繰り返すまいとの願いから「防空監視哨跡」が市指定文化財として保存されています。企画展では、みどり市民から提供された戦中・戦後の資料を展示し、戦時下のくらしから激動の時代を振り返っていました。

Tel : 0277-76-1701 Fax :  
0277-76-1703

<http://www.city.midori.gunma.jp/iwajuku/>

### 埼玉県平和資料館「埼玉ピースミュージアム」：東松山市

収蔵品展「広告から世相を読む」が 2015 年 3 月 21 日～5 月 10 日の会期により企画展示室で開催されました。1931 年の満州事変以降、次第に戦時色が強まっていくなかで、政府は国の政策や情報を国民に伝達するための手段として広告を重視してきました。今回の展示は、「時代を映す鏡」といわれるポスターやチラシなどの広告を通し、戦時中から戦後に至る激動の時代を読み解こうとするものでした。展示構成は、1. すべてはお国のために一戦時中の広告、2. 自由にしなやかに一戦後の広告で、戦時中に制作された様々なポスター、国策標語が印

刷された駅弁の包み紙、戦後埼玉県が発行した広報紙「埼玉メガホン画報」など約 100 点を展示していました。

テーマ展「戦後 70 年 祈り—受け継ぐ思い」が 2015 年 7 月 18 日～9 月 6 日により企画展示室で開催されました。お国のために戦死することを潔しとした戦時中、肉親を戦地に送り出す人々は、あらゆる方法で出征兵士の武運長久を祈りました。今回の展示では、無事の帰還を祈った千人針やお守り、戦後造立された平和祈念像などを通し、人々が祈りに込めた思いについて探っていました。

関連して、2015 年 8 月 2 日と 15 日に「戦時中の体験を聞く会」が講堂で開催されました。

Tel : 0493-35-4111 Fax : 0493-35-4112  
<http://www.saitama-peacemuseum.jp/>

### 熊谷市立熊谷図書館：埼玉

「戦後 70 周年記念—熊谷空襲の記憶展」が 2015 年 7 月 25 日～8 月 30 日の会期により 3 階の美術展示室で開催されました。1945 年 8 月 14 日の夜 11 時 30 分ごろ、アメリカ軍の B29 爆撃機が、熊谷へたくさんの爆弾、焼夷弾を落としました。現在では“熊谷空襲”と呼ばれている出来事です。それにより熊谷の街は一面火の海となり、街の中心部の 3 分の 2 が焼け、街の中心部だけで 234 人の方が亡くなりました。炎を避けようと多くの人が星川に飛び込みましたが、一酸化炭素中毒や熱風によってたくさんの方が亡くなってしまったそうです。戦争が終わるほんの数時間前の出来事でした。館では「二度と戦争を起こしてはならない」という考えの元、終戦から節目の年ごとに“熊谷空襲”に関する企画展を開催して来ています。今回展は“平和”の尊さと“戦争”の悲惨さを心に刻んでいただき、今の私たちから、次の世代、そしてその次の世代へと“平和”をリレーしていくことの大切さを感じ

ていただくために開かれました。

Tel : 048-525-4551 Fax : 048-525-4552  
<http://www.kumagayalib.jp/>

### 戸田市立郷土博物館：埼玉

第 25 回企画展（戸田市平和事業）「戦争と人々の暮らし 戦後 120 年・110 年・70 年」2015 年 7 月 18 日～9 月 6 日の会期により 3 階の特別展示室で開催されました。2015 年は、近代の日本が大きく関係した戦争が終了してから 120 年（日清戦争）、110 年（日露戦争）、70 年（アジア・太平洋戦争）の区切りの年に当たります。人々の幸せな生活を奪ってしまう「戦争」と平和の大切さについて、当時の社会情勢や人々の暮らしから振り返り、改めて考える機会とするために開かれたものです。展示のごあいさつで「日本は、軍国主義的な資本主義体制を維持し、国家の発展のために朝鮮や中国、南洋諸島へと資源を求め、干渉と侵略を行いました。」と書いています。展示構成は第一章 日清・日露戦争 列強への道、第二章 アジア・太平洋戦争 拡大する戦争、第三章 戦地での生活・銃後での生活 でした。戸田の空襲被害についても展示していました。図録を作成しています。

関連して、戸田市民大学認定講座「戦後 70 年公開座談会 よみがえる記憶」が 2015 年 8 月 22 日に戸田市立郷土博物館 2 階の視聴覚室で開かれ、戦時中の生活や学校の様子、軍隊での暮らしなどを戦争体験者が話しました。

Tel : 048-443-5600

<https://www.city.toda.saitama.jp/soshiki/377/hakubutsu-tenzitop.html>

### ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館：埼玉

戦後 70 周年記念企画展「戦時中の暮らし」が 2015 年 6 月 13 日～8 月 16 日の会期に

より常設展示室・2 階ホールで開催されました。市内に残っていた陸軍造兵廠の遺構もほとんど失われ、造兵廠で働いたことのある方々も学徒動員の世代となり、現在では 80 歳を超えています。戦後 70 年を経過し、戦争を知らない人々が圧倒的に多くなっているという現実をふまえ、戦時を生き残った人々の記憶や当時の資料を、今の人たちに伝え、さらに未来へつなげていく趣旨のもと、これまで資料館へ提供していただいた数ある資料の中から、戦時中の教育(国民学校)、第一陸軍造兵廠、戦時中の経済、兵士の出征、空襲への備え、女性たちという角度から戦時中の様子や暮らしについて物語る資料や写真を紹介していました。

Tel : 049-261-6065 Fax : 049-269-4817  
<http://www.city.fujimino.saitama.jp/categories/bunya/shinseisyo/rekimin/>

### 八潮市立資料館：埼玉

第 34 回企画展「戦火に生きる一兵士、女性、そして子どもたち」が 2015 年 8 月 1 日～9 月 27 日の会期により企画展示室で開催されました。今回の企画展では、八潮の人々がいかに戦時下を生き抜いてきたかについて歴史資料をもとに掘り下げ、戦争の悲惨さや平和の大切さを伝えるべく、兵士だけではなく銃後を守った女性や子どもたちにもスポットをあて、戦争体験者の証言映像を交えながら戦争の実像を紹介していました。図録を作成しています。

Tel : 048-997-6666 Fax : 048-997-8998  
<http://www.city.yashio.lg.jp/2538.htm>

### 蕨市立歴史民俗資料館：埼玉

第 26 回特別展 蕨市平和都市宣言 30 周年記念事業「戦後 70 年」が 2015 年 7 月 25 日～9 月 27 日の会期により 2 階展示室で開催されました。蕨市が受けた空襲の記録や、戦後の高度経済成長の時代を中心に紹介していました。

Tel : 048-432-2477

<http://www.city.warabi.saitama.jp/hp/page000006700/hpg000006694.htm>

#### 我孫子市杉村楚人冠記念館：千葉

「戦時下のアサヒグラフ」が2015年7月14日～10月4日の会期で開催されました。日本の敗色が濃くなっていく、1944年10月から1945年3月までの画報雑誌『アサヒグラフ』を見て、戦時下のメディアがどのように戦意高揚に使われたのかを振り返るものでした。

Tel : 04-7182-8578

[https://www.city.abiko.chiba.jp/event/hiseki\\_bunkazai/.../eventnew.html](https://www.city.abiko.chiba.jp/event/hiseki_bunkazai/.../eventnew.html)

#### 鎌ヶ谷市郷土資料館：千葉

第16回ミニ展示「鎌ヶ谷村の太平洋戦争－終戦70周年」が2015年7月18日～9月27日の会期により2階展示室で開催されました。この展示では、主として太平洋戦争のころの市域の様子や戦地におもむいた鎌ヶ谷村の人たちに関する歴史資料や写真を原本やパネルで展示していました。日本の近・現代史における戦争の意味をもういちど問い直すことが趣旨でした。解説資料と解説筆写集を作成しています。同時に収蔵資料展示 vol.11「後世に伝えたい戦争資料」も開催していました。

Tel : 047-445-1030 Fax :  
047-443-4502

<https://www.city.kamagaya.chiba.jp/shiryokan/oshirase.html#minitenji>

#### 鴨川市郷土資料館：千葉

収蔵資料展「鴨川と戦争－戦後70年」が2015年7月18日～9月23日の会期で開催されました。

Tel:04-7093-3800

[http://www.city.kamogawa.lg.jp/gyoseijoho/shisetsuichiran/kyodoshiryokan\\_bun](http://www.city.kamogawa.lg.jp/gyoseijoho/shisetsuichiran/kyodoshiryokan_bun)

[kacenter/1412777233050.html](http://kacenter/1412777233050.html)

#### 木更津市郷土博物館金のすず：千葉

特別展「昭和20年の木更津」が2015年8月1日～10月12日の会期で開催されました。昭和20年の木更津では、8月15日正午に博物館前の太田山山頂で終戦の玉音放送を聴いた軍関係者もいれば、数時間前に同じく博物館のある太田山宿舎から上官の命令で出撃し、海軍公式記録上最後の特別攻撃で戦死した軍人もいました。また、数日後の8月19日には、木更津基地から連合国への降伏の事前調整を図るため、秘密裏に日本の全権大使がマニラに向かい、9月2日の降伏調印が成されました。本展では、木更津の資料の展示を通じて、70年前の昭和20年の郷土木更津に関する戦争関係資料を中心に展示していました。

関連して講演会が2015年8月29日にロイヤルヒルズ木更津ビューホテルで開催されました。講演内容は(1)木更津周辺の戦争遺跡と市民生活、講師 栗原克栄さん（上総高等学校教諭）、(2)昭和20年の海軍木更津航空基地 講師 吉野泰貴さん（旧海軍研究家）でした。

Tel : 0438-23-0011 Fax : 0438-23-2230

<http://www.city.kisarazu.lg.jp/13,491,38,262.html>

#### 佐倉市和田ふるさと館：千葉

佐倉市平和条例施行20周年 終戦70年平和祈念特別展「忘れ得ぬ記憶－戦争と和田村」が2015年7月8日～9月23日の会期により歴史民俗資料室で開催されました。1990年に和田地区でまとめられた『忘れ得ぬ記憶』をもとに、戦時中の和田地区の様子を実物資料や写真で紹介していました。

Tel : 043-498-0417 Fax : 043-498-0417

<http://www.city.sakura.lg.jp/>

### 山武市歴史民俗資料館：千葉

「太平洋戦争 70 周年記念展」の企画展 1 「郷土危うし 空襲下の山武地域」が 2015 年 7 月 4 日～10 月 25 日の会期で開催されました。山武地域を中心に、軍関連施設や空襲について展示していました。

関連して、講演会「20 年に及ぶ戦跡調査でわかったこと、伝えたいこと」が 2015 年 7 月 25 日に真行寺重昭さんを講師に開かれました。

Tel : 0475-82-2842

<http://www.city.sammu.lg.jp/site/rekishiminzokushiryokan/tennji2014.html>

### 館山市立博物館：千葉

戦後 70 年企画 収蔵資料展「戦時のたてやま」が 2015 年 7 月 11 日～9 月 6 日の会期により本館で開催されました。戦時下の市域のようすを取り上げ、軍都館山とそこに生きた人々の暮らしを紹介していました。1930 年創立の館山海軍航空隊、1941 年創立の館山海軍砲術学校など、本市域には多くの軍事施設がありました。このような地域の特徴を示す資料とともに、戦時中の暮らしや学びに関わる資料を紹介し、戦争が地域の人々に与えた影響について振り返る機会としていました。さらに、1927 年にアメリカから親善のため日本の小学校に贈られた「青い目の人形」のうち、館山小学校（個人蔵）・南房総市立富浦小学校・鴨川市立東条小学校・君津市立松丘小学校・富津市立佐貫小学校の 5 体を借りて特別公開していました。地域の歴史を知るとともに、戦時中に生きた人々に思いをはせる機会とするために開かれました。

Tel : 0470-23-5212 Fax :  
0470-23-5213

<http://www.city.tateyama.chiba.jp/hakubutukan/page100068.html>

### 松戸市立博物館：千葉

館蔵資料展 2「松戸市平和祈念展」が 2015 年 7 月 18 日～9 月 23 日の会期により企画展示室で開催されました。日本は、日中戦争、太平洋戦争とつづく苦しみに満ちた長い戦争の時代を迎えました。中国大陸から太平洋地域にまで広がった戦火は、多くの人的損害を出し、国内でも物資の統制など厳しい生活を強いられました。戦争末期には空襲による被害が市域にも及びました。本展では市民から寄贈された資料を通して多くの犠牲と悲劇を生んだ戦争の体験と記憶を後世に伝えるとともに、平和の尊さを多くの市民に知っていただくために開いたものです。図録を作成しています。

Tel : 047-384-8181 Fax : 047-384-8194  
[http://www.city.matsudo.chiba.jp/m\\_muse/](http://www.city.matsudo.chiba.jp/m_muse/)

### 睦沢町立歴史民俗資料館：千葉

企画展「終結 70 年 房総半島の第二次世界大戦」が 2015 年 6 月 6 日～9 月 6 日の会期で開催されました。第二次世界大戦が終結して 70 年、戦争の事実を伝えるため、房総半島での戦争の様子を示す資料を紹介していました。

Tel : 0475-44-0290 Fax : 0475-44-0213  
[http://www.town.mutsuzawa.chiba.jp/s\\_hisetsu/rekishiminzoku/gaiyou.html](http://www.town.mutsuzawa.chiba.jp/s_hisetsu/rekishiminzoku/gaiyou.html)

### 東京大空襲・戦災資料センター：江東区

東京大空襲・戦災資料センター編『決定版 東京空襲写真集ーアメリカ軍の無差別爆撃による被害記録』が 2015 年 1 月 20 日に勉誠出版から発行されました。写真集には、戦時中に警察や軍関係者が撮影した東京空襲被害写真を可能なかぎり収録しました。戦時中公然と空襲被害を撮影できたのは警察や軍関係者のみですので、ほぼ網羅的な東京空襲被害写真集といえます。写真

には、初空襲、銀座空襲、下町大空襲、山の手大空襲、八王子空襲など、すべての主要空襲の被害写真があります。写真からは、アメリカ軍の東京空襲が軍需工場などの軍事施設のみでなく、教育機関、宗教施設、繁華街などの非軍事施設をも破壊し、住宅地を焼き払い、女性や赤ちゃんなどの民間人・非戦闘員を殺戮するという非人道的なものであったことを読みとることができます。写真集はA4判上製 536 ページで、約 1400 点の写真とともに 10 点の関連図表・地図と東京空襲の概略、撮影者・団体の紹介、収録の経緯などを書いた解説なども収録しています。

『決定版 東京空襲写真集』刊行を記念して 2015 年第 1 回特別展「戦後 70 年にふりかえる東京空襲写真展」を 2015 年 2 月 25 日～4 月 12 日の会期により 2 階会議室で開催しました。この写真展には、『決定版 東京空襲写真集』に収録した写真のうち、石川光陽氏撮影と、東方社のカメラマン菊池俊吉氏、林重男氏、後藤種吉氏が所蔵していた東京空襲写真、から代表的な写真約 130 点を展示しました。この中には、東京大空襲・戦災資料センターの研究により、新に発見されたり、撮影した空襲の月日や場所が特定されたりして、初めて展示される写真も含まれていました。東京大空襲から 70 年にあたり、東京空襲の惨禍を見て、改めて戦争について考えていただきたいと思い、開催されたものです。

関連して、記念講演会が 2015 年 2 月 28 日に 2 階会議室で開かれました。講演の講師と演題は、井上祐子(東京大空襲・戦災資料センター主任研究員、京都外国語大学非常勤講師)「東京空襲を撮ったカメラマンたち」、大堀宙(明治大学大学院後期課程)「石川光陽資料と空襲記録写真」、山辺昌彦(東京大空襲・戦災資料センター主任研究員)「東京空襲記録写真の全貌―新公開写真を中心に」の 3 本でした。

「戦争末期の国策報道写真資料の歴史学的研究―国防写真隊と東方社を中心に」(科学研究費助成事業「学術研究助成基金助成金(基盤研究(C))」) 2013 年度研究成果報告書『戦中・戦後の記録写真―「東方社コレクション」の全貌』が 2014 年 2 月 28 日に刊行されました。報告書には「青山光衛氏旧蔵東方社・文化社関係写真コレクション」(略称「東方社コレクション」)の解題と全ネガのコマ毎のリストを収録しています。全ネガの分析をふまえて、井上祐子さんが解題の総論「東方社再考―「東方社コレクション」のあらましと東方社への新たなアプローチ」を書き、解題の各論は山辺昌彦、井上祐子、植野真澄、小山亮、大岡聡の各担当者が分担して執筆しています。また、東京空襲を記録する会に寄贈され、東京大空襲・戦災資料センターに引き継がれた「日本写真公社撮影空襲関係写真」について、石橋星志さん作成の改訂したリストと写真一覧とを収録しています。

「東京大空襲を語り継ぐつどい―東京大空襲・戦災資料センター開館 13 周年」が 2015 年 3 月 8 日に江東区文化センターで開催されました。田近治代さんの「東京大空襲の体験談」、星野ひろしさんの「証言映像」作品の上映、俳優の岩崎加根子さんの「お話と詩の朗読」などがありました。

「戦後都市社会における空襲被災者運動の歴史学的研究」が、科学研究費助成事業「学術研究助成基金助成金(基盤研究(C))」に採択されました。研究代表者は大岡聡さんで 3 年間の研究期間です。

2015 年夏休み特別企画「みんなで学び、伝えよう!東京大空襲」が、2015 年 8 月 13 日～16 日に 2 階会議室で開かれ、体験者の話、紙芝居、リレー講読会などがありました。

空襲・戦災を記録する会全国連絡会議第 45 回東京大会が東京大空襲・戦災資料センターの担当により 2015 年 8 月 21 日～23

日に東洋大学白山キャンパスで開催されました。

Tel:03-5857-5631 Fax:03-5683-3326

<http://www.tokyo-sensai.net/>

### 世田谷区立平和資料館：東京

世田谷区池尻1-5-27の世田谷公園内に平和資料館（愛称：せたがや未来の平和館）が2015年8月15日に開館しました。世田谷区では、大きな犠牲と悲劇を生んだ太平洋戦争の体験や記憶を後世に伝えるとともに、戦争の悲惨さと平和の尊さを知っていただくため、せたがや平和資料館を設置・運営しました。平和資料館では年間を通じた常設展と、8月から12月にかけて行う「特別展」「地域巡回展」を実施しています。常設展示パネルには次の6つがあります。

- 1.平和資料館 世田谷区の平和への取り組みを紹介しています。
- 2.太平洋戦争 開戦から終戦に至るまでの太平洋戦争の年表、当時の新聞や宣戦の詔勅などを展示しています。
- 3.広島・長崎の原爆 広島、長崎に投下された原爆の被害状況を記録した写真を展示し、当時の悲惨な状況を伝えています。
- 4.東京大空襲 1945年の東京大空襲では、10万人もの人々が亡くなりました。空襲された浅草付近の被害状況の写真を展示しています。
- 5.太平洋戦争と世田谷 世田谷区にはいくつかの軍事施設がありました。主な軍事施設とその跡地の利用の写真を掲示しています。また、世田谷区の戦災、被害の状況を資料で展示しています。
- 6.世田谷区の学童疎開 1944年より実施された学童集団疎開。世田谷区の疎開先は新潟県と長野県でした。食料不足にもめげず懸命に生きる子どもたちの疎開先での生活を写真で紹介しています。また、区民のから寄贈された戦時下の生活を伝える日用品などの実物資料を展示しています。ライブラリでは戦争に関する書籍やビデオ、DVDを自由に閲覧することができます。また、一部

作品は貸し出しを行っています。

Tel:03-3414-1530 Fax:03-3414-1532

<http://www.city.setagaya.lg.jp/kurashi/107/157/749/750/d00141171.html>

### 板橋区立郷土資料館：東京

企画展「板橋の平和一戦中・戦後をふりかえる」が2015年7月25日～8月30日の会期により2階企画・特別展示室で開催されました。今年は終戦から70年、板橋区平和都市宣言から30年という節目の年にあたります。そこで、戦後世代特に小・中学生に平和に対する思いを引きついでもらうことを主な目的として、戦争体験者から聞き取り調査や記録等とおして戦争の悲惨さを示すことにより、平和の尊さにせまるものでした。

Tel:03-5998-0081 Fax:03-5998-0083

<http://www.k5.dion.ne.jp/~kyoudo/>

### 中川船番所資料館：東京・江東区

終戦から70年 特別展「太平洋戦争と江東の暮らし」が2015年7月23日～9月13日の会期により2階郷土の歴史文化紹介展示室で開催されました。そこで江東区がこれまで収集し保存してきた戦時下から終戦直後の生活、戦災、学童疎開などに関する資料を公開するとともに、東京大空襲・戦災資料センターから提供された東京大空襲の被害写真や、しょうけい館から提供された資料も展示していました。

Tel:03-3636-9091 Fax:03-3636-9094

<http://www.kcf.or.jp/nakagawa/index.html>

### 台東区立下町風俗資料館：東京

2015年度企画展「戦後70年 下町の暮らしと出来事」が2015年5月12日～7月12日の会期により2階展示室で開催されました。今年の企画展では、戦時下における下町の人びとの暮らしに焦点をあて、收藏品

の中から選定した多岐にわたる資料を「衣」「食」「住」に分けて展示していました。

Tel : 03-3823-7451

<http://www.taitocity.net/taito/shitamachi/>

### 白根記念渋谷区郷土博物館・文学館：東京

企画展「戦時中の渋谷―資料が語る当時の暮らし」が2015年8月8日～10月12日の会期により1階展示室で開催されました。戦後70年にあたり、戦時中の渋谷の様子を、当時使われた道具などから振り返るものでした。

Tel : 03-3486-2791 Fax : 03-3486-2793

<https://www.city.shibuya.tokyo.jp/edu/koza/12kyodo/kyodoinde.html>

### 新宿歴史博物館：東京

常設展示室の特設コーナー展示「戦後70年関連資料」が2015年7月1日～9月30日の会期で開催されました。ポスターなどの関連資料で戦争を振り返るものでした。

Tel : 03 - 3359 - 2131

<http://www.regasu-shinjuku.or.jp/rekihaku/0221/90691/>

### 杉並区立郷土博物館分館：東京

企画展「終戦70年 戦争を語り継ぐ 杉並の戦争と平和」が2015年7月4日～8月30日の会期により2階展示室で開催されました。戦災の状況など戦時下の様子を地図や年表を通して紹介していました。その中で中島飛行機東京工場の史実とともに、軍事施設として徴用された時の学校や企業なども紹介していました。また、学童集団疎開については体験者の語りや収蔵資料から見ていくようになっていました。また、区民参加型展示「零戦のエンジンをつくった中島飛行機工場がかって杉並にあったことを知っていますか」が2015年7月11

日～9月6日の会期により1階展示室で開催されました。

Tel : 03-5347-9801 Fax : 03-5347-9802

<https://www2.city.suginami.tokyo.jp/map/detail.asp?home=H05235>

### すみだ郷土文化資料館：東京

企画展「東京大空襲・七十年」が2015年2月21日～5月17日の会期により3階展示室で開催されました。『都内戦災殉難者霊名簿』という東京空襲に関わる新資料と、それをもとに新たに作成した空襲被災地図の紹介を中心に、空襲被害の新事実を明らかにする企画展でした。今回の展示では、被災地図に表された空襲時における避難動向と空襲火災の発生・延焼状況について、写真・絵画・証言記録などの関連資料と合わせて検証し、3月10日の人的被害の実態と被害拡大の要因について「町」別に読み解いていました。

企画展「東京大空襲と失われた命の記録」が2015年8月1日～9月23日の会期により3階展示室で開催されました。展示は、終戦直後に作成された空襲の人的被害に関わる調査記録と、そこに記された犠牲者のご遺族からの聞き取り調査や収集された資料をもとに、失われた家族や地域の絆がもつ意味を改めて問い、空襲により奪われた命の重みについて考えていくものでした。

Tel : 03-5619-7034 Fax :

03-3625-3431

[https://www.city.sumida.lg.jp/sisetu\\_info/siryoku/kyoudobunka/](https://www.city.sumida.lg.jp/sisetu_info/siryoku/kyoudobunka/)

### 千代田区立日比谷図書文化館：東京

企画展「学童疎開からみる子どもたちの生活」が2015年7月21日～8月9日の会期により1階の特別展示室で開催されました。今から70年以上前、日本が戦争をしていた時代に、国民学校の子どもたちが体験した学童疎開を取り上げます。戦争が

激化し、日本への空襲が始まると、子どもたちを都市から郊外へ避難させる計画が立てられました。最初は、親類などを頼った縁故疎開が行なわれますが、なかなか進まず、特定の地域を割り当て集団的に疎開をさせる方針が取られました。そして、現在の小学校3年生～6年生にあたる子どもたちが集団疎開の対象となり、千代田区の場合は、麴町地区は山梨県に、神田地区は埼玉県に、地域が割り当てられました。この展示では、家族と別れての生活、子どもたちだけでの集団生活を送らなければならなかった様子などを、写真・絵画・手紙などで紹介していました。図録を刊行しています。構成は、以下のようでした。

「写真週報」にみる戦時下

- 1) 日米開戦
- 2) 戦争激化のなかの日常生活  
学童疎開の様子

- 1) 集団疎開はじまる
- 2) 学童集団疎開の生活
- 3) 疎開日誌

平和の世の到来

- 1) 占領下の東京
- 2) 神田復興祭

Tel : 03-3502-3340

<http://hibiyal.jp/hibiya/index.html>

### 千代田図書館：東京

千代田図書館：& 勉誠出版連携ミニ展示「写真で知る東京空襲 — 『決定版 東京空襲写真集』より千代田区を中心に」が2015年7月27日～8月31日の会期により9階の調査研究ゾーン側壁面で開催されました。70年前の戦争の真っ只中、空襲を受けた東京は、さながら廢墟と化しました。そして、それは千代田区も例外ではありませんでした。本展示では、『決定版 東京空襲写真集』（勉誠出版）から、千代田区にかかわるものを中心に約30点の写真を展示しました。空襲の被害、道端の防空壕への避難、

避難所での炊き出し、がれきの中での告別式、焼け跡での生活風景など、空襲の恐怖と隣合わせで生活せざるをえなかった人々の姿をとらえた写真のほか、東京駅や松屋浅草などランドマーク周辺の当時と現在の様子を比較できる写真も展示していました。戦後70年という節目の年に、改めて戦争について考えるきっかけになればと考え開かれたものです。

Tel : 03-5211-4289・4290

<http://www.library.chiyoda.tokyo.jp/information/20150722-16870/>

### 豊島区立郷土資料館：東京

夏の収蔵資料展「戦争を考える夏2015」が2015年7月10日～8月30日の会期で開催されました。郷土資料館では、1984年の開館以来、戦争体験を掘りおこし、語りつぐため、戦時中の区民生活や空襲、集団学童疎開などをテーマに展示会を行なってきました。戦争体験者が年々減少する一方で、戦後70年の節目に、家に遺された戦争関係資料を活用してほしいと寄贈して下さる方が増えています。今回の展示では、近年寄贈されたスガモ・プリズン関係や集団学童疎開関係資料のほか、今年寄贈された戦後の焼け跡の写真など戦中・戦後の初公開資料を中心に紹介していました。「スガモ・プリズン」「集団学童疎開」「戦中・戦後のくらしー巣鴨・上野家寄贈資料から」「防空演習と空襲」の4つのテーマで展示をしています。戦後70年を機会に、改めて戦争と平和について考えるとするために開かれたものです。解説資料を作成しています。

Tel : 03-3980-2351

<http://www.city.toshima.lg.jp/129/bunka/bunka/shiryokan/oshirase/2015-natsu.html>

## 中野区立歴史民俗資料館：東京

「ポスターに見る戦中生活―須藤亮作コレクション」が2015年5月26日～7月5日の会期で開催されました。須藤亮作コレクションから約30点のポスターと戦時下の暮らしを伝える館蔵資料を「戦争にかりたてるうごき」「空襲下の生活」「戦いに出た兵士たち」「物が欠乏する生活」の4つのコーナーに分けて展示していました。ポスター・物資料は国民精神総動員運動、節約、供出、代用品、スパイ防止、空襲、女性の防空、債券、貯蓄、切符制、少年飛行兵、慰問、傷痍軍人、健康、体育、お菓子などに関するものがありました。学童疎開や空襲被害写真も展示していました。田島奈都子さんの『近代画説』の論文を参考にしていました。

Tel : 03-3319-9221 Fax :  
03-3319-9119

<http://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/dep/403200/d015323.html>

## 練馬区立石神井公園ふるさと文化館：東京

収蔵品企画展「戦時下の暮らし」が2015年6月27日～8月16日の会期により2階の企画展示室で開催されました。戦時下の生活資料、出征、空襲、学童疎開などの戦時下の子どもたち、1943年に首都防衛のため現光が丘に建設された成増飛行場と戦後のグラントハイツなどから、戦時下の練馬区域の様子を紹介していました。解説資料を作成しています。構成は次の通りです。

### 1. 戦時下の暮らし

①防空 服装 国民服、ゲートル、防空ずきん、雑のう、防毒面 灯火管制用笠、消火弾

②暮らし 衣料切符、債券、金属回収関係資料、陶製湯たんぽ

### 2. 出征

①出征 幟、千人針、日の丸寄せ書き、

赤紙複製、婦人会たすき

②兵士たち 軍事郵便、軍票、軍隊手帖、軍装、傷痍軍人証・記章・手帖

### 3. 空襲

爆弾破片、伝単複製 帝都防空情報から作成し、爆弾・焼夷弾投下地点、軍事施設を書き込んだ地図、東京大空襲・戦災誌の資料から作成した空襲日録

### 4. 戦時下の子どもたち

①学童疎開 子どもと家族の往復書簡 学寮日誌、教科書、写真 学童疎開先一覧

②子どもたちの遊び 双六 愛国百人一首

### 5. 成増飛行場・戦後のグラントハイツ

煉瓦、記念コイン、代用貨幣、地図、航空写真、写真

Tel : 03-3996-4060 Fax :  
03-3996-4061

<http://www.neribun.or.jp/furusato.html>

## 港郷土資料館：東京

コーナー展「港区平和都市宣言30周年 終戦70年―港区の戦中・戦後」が2015年7月17日～9月16日の会期で開催されました。終戦70年に際し、戦時下の生活や戦後復興の様子を館蔵資料を中心に紹介したものでした。

Tel : 03-3452-4966 Fax :  
03-5476-6369

<http://www.lib.city.minato.tokyo.jp/muse/j/index.cgi>

## めぐろ歴史資料館：東京

秋の企画展「目黒の戦後」が2015年9月12日～11月23日の会期により企画展示室、体験学習・資料閲覧室で開催されています。目黒の戦中・戦後の暮らしに関する資料を通して、当時の人びとの暮らしの様子や、戦争が暮らしに与えた影響や被害について概観したものです。構成は以下の通りです。

### 1. 出征と銃後

出征兵士のために作られたもの（千人針や慰問袋など）や、銃後を守った各種団体に関する資料を紹介しています。

#### 2、戦時下目黒の暮らし

厳しい食糧・物価統制を示す資料や、各種の代用品の展示を通して、戦時下の庶民の暮らしを紹介しています。

#### 3、目黒大空襲

1945年5月24日・25日の「山手空襲」は目黒にも甚大な被害をもたらしました。パネル展示を交えながら被害の実態について紹介しています。

#### 4、戦争と学校生活

戦時下の学校生活の様子や疎開資料、また二宮金次郎や奉安殿の写真パネルの展示を通して、戦争が教育にもたらした影響について紹介しています。

#### 5、戦後目黒の復興

目黒の戦後復興について、戦後の混乱や食糧難を示す資料とともに、映画館など庶民の娯楽の視点も交えながら紹介しています。

Tel : 03-3715-3571 Fax :  
03-3715-1325

[http://www.city.meguro.tokyo.jp/shiset-su/shisetsu/bijutsu/rekishi\\_shiryokan/index.html](http://www.city.meguro.tokyo.jp/shiset-su/shisetsu/bijutsu/rekishi_shiryokan/index.html)

#### 昭和のくらし博物館：東京・大田区

特別展「小泉家に残る戦争」展が2015年8月1日～30日の会期で開催されました。茶の間、台所、座敷、子供部屋にて戦時中のくらしを再現し、談話室にて特集展示をしていました。

Tel& Fax : 03-3750-1808

<http://www.showanokurashi.com/>

#### 青梅市郷土博物館：東京

企画展「戦時下の青梅」が2015年8月15日～10月4日の会期により1階展示室で開催されました。郷土博物館には数多く

の戦時中の収蔵品があります。今回戦後70年目を迎え、戦時中の生活に関するもの、出征された方々のもの、当時の写真などを展示していました。これらの中には、徴兵を受けて、戦地に行きその場所で使用した、あるいは身に着けていたもの。家族に宛てた手紙、戦地で撮影された写真があります。これらの品々は、遺影として、形見として、家族に送られたものかもしれません。また、国内では、極度の物資不足となったため本来の材料が調達できず、代用品として使用したものなども展示していました。今、私たちの日常と当時の日常がいかにかけ離れたものなのか、この展示会の展示品を見て、平和の尊さをご実感もらうために開いたものです。

Tel : 0428-23-6859 Fax :  
0428-21-0464  
<http://www.ome-tky.ed.jp/kyodo/sensouten2015.html>

#### くにたち郷土文化館：東京

ミニ企画展「戦後70年 くにたちと戦争」が2015年8月1日～15日の会期で開催されました。戦争に関わる写真や収蔵資料を展示していました。展示は、戦時中の国立市年表に始まり、写真パネル、軍用品、日用品などの実物をそろえていました。展示室内では、家族が出征した方の体験談を流し、この方以外にも、当時くにたちにおられた2人の方の貴重な聞き取り記録を文章にして、展示していました。くにたちでの戦争が、どのようなものであったのか、展示を通して触れてほしいという趣旨で開かれたものです。

Tel : 042-576-0211

<http://www.kuzaidan.com/province/>

#### 武蔵国分寺跡資料館：東京

企画展夏季展示「国分寺市の戦争記録」が2015年7月18日～8月30日の会期に

より講座室で開催されました。太平洋戦争には日本全国の国民が関わり、多摩地域でも、各個人が戦争に関わりました。本企画展では、戦争当時の国分寺町に視点をおき、国分寺町に住む人々がどのように戦時中を過ごし、また、戦争に関わったかについて着目していました。市内各地に残る太平洋戦争に関する遺品や記録資料を見て、後の平和を考えるための参考としてもらうために開いたものです。主に太平洋戦争末期の人々の生活、また空襲について取り上げていました。展示目録を作成しています。

Tel : 042-323-4103 Fax : 042-300-0091

<http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/shisetsu/kouen/1005196/1004239.html>

#### 調布市郷土博物館：東京

戦後 70 年平和祈念事業「調布市民と戦争－戦後 70 年、戦争について知る」が 2015 年 7 月 22 日～9 月 6 日の会期により第 1 展示室で開催されました。戦争の惨禍を二度と繰り返すことなく、平和な未来を子どもたちに手渡すために、戦争を知らない世代の一人ひとりが平和の尊さを強く意識して、戦争体験を次の世代に伝えていくことが重要です。戦争体験世代が少なくなりつつある今、平和な未来を紡いでいく機会とするために開かれたものです。

Tel : 042-481-7656 Fax : 042-481-7655

<http://www.city.chofu.tokyo.jp/www/contents/1437652359506/index.html>

#### 八王子市郷土資料館：東京

特別展「戦後 70 年 昭和の戦争と八王子」が 2015 年 7 月 22 日～9 月 30 日の会期により 1 階展示場で開催されました。戦後 70 年の節目の年に、館がこれまで収集した資料から、焼夷弾の傷跡が残る板戸や当時の市民や子どもたちの写真など、約 500 点の

資料を展示し、満州事変から太平洋戦争に至る戦時下の市民生活、八王子空襲の惨禍、戦後の復興の道のを振り返るものでした。戦争を体験していない世代が大半を占めるようになる中、戦争の記憶を風化させず後世に伝えるため、八王子に残る資料をしっかりと見つめ直し、戦争の悲惨さと平和の大切さを考えてもらうために開いたものです。図録を作成しています。

関連して講座「八王子と戦時下の生活」が 2015 年 8 月 14 日と 15 日に開かれました。

Tel : 042-622-8939 Fax : 042-627-5919

<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisetsu/28254/028261.html>

#### 東村山ふるさと歴史館：東京

終戦 70 年企画展「東村山地域をめぐる戦後と前線」が 2015 年 7 月 11 日～8 月 30 日の会期で開催されました。戦時中の東村山には、陸軍少年通信兵学校（東京陸軍少年通信兵学校）があり、その跡地は市指定旧跡になっています。また、役場が担った徴兵・動員業務に関わる「兵事関係書類」が焼却されずに残されており、これは全国でも数少ない貴重な資料です。今回の展示では「銃後」と「前線」という対立する言葉で、東村山の戦争を概観することを試みていました。1938 年の国家総動員法のもと、東村山地域は近郊農村であることから、都市への食糧供給などを行なう「銃後」で、1944 年の学童疎開促進要綱などにもとづき疎開を受入れる地域のはずでした。一方で、1937 年に勃発した日中全面戦争が泥沼化し、1941 年に勃発した太平洋戦争でアメリカ・イギリスなどとも戦端が開かれると、1940 年代から東村山周辺地域には軍事関係施設が広がるようになりました。さらに、戦争末期の 1945 年に硫黄島や沖縄を失うなど戦局が悪化すると、東村山地域にも軍隊が駐屯して本土決戦に備え、空襲によつ

で多くの住民が亡くなり、米軍の B29 爆撃機も墜落して搭乗員が戦死するという、東村山地域が「前線」となっていく厳しい時代がうかがえます。館は、過去にも戦争関係の企画展を行なってきましたが、その際に紹介しきれなかった収蔵資料を今回の展示では主に展示していました。展示を通じ、戦争の「記憶」を「記録」にとどめていく行為の大切さを伝えようとしていました。図録を作成しています。

展示構成は次のようでした。

1.銃後としての東村山

疎開の受入れ／銃後の生活

資料紹介—統制陶磁器

2.東村山出身の兵士

出征と帰還／兵事関係書類

資料紹介—出征・除隊等の記念杯

3.前線となった東村山

東村山の空襲／東村山地域の軍関係施設／歩兵第 503 連隊の駐屯

資料紹介—警防関係書類綴

Tel : 042-396-3800

<http://www.city.higashimurayama.tokyo.jp/tanoshimi/rekishi/furusato/>

**東大和市立郷土博物館：東京**

企画展示「戦後 70 年—私たちのまちは戦場だった」が 2015 年 7 月 11 日～9 月 6 日の会期で開催されました。東大和に残る戦跡や戦時中の生活に関する収蔵資料や市民所有資料を展示するとともに、多摩地域や全国の戦争や空襲の痕跡についても紹介していました。

関連して、記念講演会「日本の戦争遺跡の調査・研究と保存—旧日立航空機変電所を中心に」が 2015 年 8 月 9 日に中央公民館ホールで十菱駿武山梨学院大学客員教授を講師に開かれました。

Tel : 042-567-4800 Fax :  
042-567-4166

<http://www.city.higashiyamato.lg.jp/e>

[vents/index.cfm/detail.1.64113.html](http://www.city.higashiyamato.lg.jp/e/vents/index.cfm/detail.1.64113.html)

**福生市郷土資料室：東京**

企画展示「平和のための戦争資料展」が 2015 年 7 月 18 日～9 月 27 日の会期で開催されました。戦後 70 年にあたり、福生に残された軍事郵便や戦時中に使われた生活用品、陸軍多摩飛行場などの戦争関係資料から、平和について再認識することを目的とした展示をしていました。

Tel : 042-530-1120

<http://www.museum.fussa.tokyo.jp/>

**武蔵野ふるさと歴史館：東京**

企画展「戦争と武蔵野」が 2015 年 8 月 13 日～10 月 4 日の会期で開催されました。太平洋戦争の終戦から 70 年を迎える本年。戦争という悲惨な歴史を風化させず、きちんと語り継いでいくために、中島飛行機武蔵製作所関連の資料を中心に、武蔵野にかかわる戦争の史実を紹介していました。展示リストを作成しています。

Tel : 0422-53-1811 Fax :

0422-52-1604

[http://www.city.musashino.lg.jp/shogai/gakushu\\_koza/rekishikan/021958.html](http://www.city.musashino.lg.jp/shogai/gakushu_koza/rekishikan/021958.html)

**武蔵村山市立歴史民俗資料館：東京**

ミニ企画展「武蔵村山の戦争資料」が 2015 年 4 月 12 日までの会期で開催されました。

Tel : 042-560-6620 Fax : 042-569-2762

<http://www.city.musashimurayama.lg.jp/shiryokan/>

**慶応義塾福澤研究センター：東京・港区**

「慶応義塾と戦争Ⅲ 慶応義塾の昭和二十年」が第 1 会場 空襲、戦死、終戦の図書館展示室では 2015 年 6 月 1 日～8 月 6 日の会期で、第 2 会場 疎開、動員、占領

の慶応義塾大学アート・スペースでは 2015 年 7 月 1 日～31 日の会期で開催されました。1945 年、慶応義塾の塾生は、陸海軍に、勤労働員に、疎開に、散り散りとなりました。教職員は、時局に対応しながら、教育研究の継続に苦悩しました。義塾関係の戦死者は 2200 名以上、全国の大学中で最大の空襲被害を受け、戦後は米軍が日吉を接收しました。本展では、1945 年の「終戦」を前後する激流の中の義塾と塾生・塾員の姿を丹念に描き出すことを通して、戦争の時代を多角的に見つめ直す視点を提供していました。図録と展示目録を刊行しています。

Tel : 03-5427-1604 Fax :  
03-5427-1605  
<http://project.fmc.keio.ac.jp/exhibit03x.html>

#### 上智大学四谷キャンパス中央図書館：東京・千代田区

戦後 70 年「学生が見た、上智大学の戦前・戦中・戦後」が 2015 年 6 月 25 日～9 月 3 日の会期により 1 階展フロアに設けられた展示会場で開催されました。上智大学の史・資料室が所蔵する、戦前・戦中・戦後の写真および資料を展示していました、特に、当時のキャンパスの様子に加え、学内で行われた軍事教練や出陣学徒壮行会の模様を写真で伝えるとともに、徴兵のために繰り上げ卒業となった卒業生代表による答辞なども展示していました。

Tel: 03-3238-294  
[http://www.sophia.ac.jp/jpn/info/news/2015/6/globalnews\\_1513/20150625?kind=0](http://www.sophia.ac.jp/jpn/info/news/2015/6/globalnews_1513/20150625?kind=0)

**東京家政大学博物館：東京・板橋区**  
企画展「昭和の暮らし」が 2015 年 5 月 14 日～6 月 16 日の会期で開催されました。  
Tel: 03-3961-2918 Fax :  
03-3961-5246  
<http://www.tokyo-kasei.ac.jp/hakubutu>

</tabid/1349/index.php>

#### 東京外国語大学：東京・府中市

戦後 70 年企画展「東京外国語学校と戦時下の学生たち」が 2015 年 7 月 9 日～9 月末の会期により附属図書館 1 階 ギャラリースペースで開催されました。戦後 70 年の本年、戦中当時の東京外国語学校に通っていた卒業生の方々に聞き取り調査をし、その調査の過程で明らかになった事実や資料を中心に、戦中の学生生活を紹介していました。ウェブ上の図録を作成しています。

Tel: 042-330-5842  
<http://www.tufs.ac.jp/common/archives/>

#### 文化学園服飾博物館：東京

「衣服が語る戦争」が 2015 年 6 月 10 日～8 月 31 日の会期で開催されました。戦争という特殊な状況下において、人々の衣生活には大きな変化が生じました。戦時下の衣服には、戦意高揚やナショナリズムを意識した文様、国民の統率を図り贅沢を制約するための標準服など、大衆が戦争にのみ込まれていくさまが見て取れます。展示では、明治時代から昭和戦前期を中心とした戦時下の人々の着物や洋装、また同時期のヨーロッパで流行したミリタリー・テイストのスーツなど、衣服が語る戦争の影響を、当時の雑誌などもあわせて紹介していました。

Tel : 03-3299-2387  
<http://museum.bunka.ac.jp/schedule/>

#### 明治大学博物館：東京

「学生たちの戦前・戦中・戦後」が明治大学史資料センターと全国大学史資料協議会東日本部会の主催で、2015 年 7 月 3 日～8 月 2 日の会期によりアカデミーコモン地階で開催されました。「学生」にスポットを当てた本展示では、第一次世界大戦後の高等教育機関の拡充期から、第二次世界

大戦および戦後改革を経て高度経済成長期までの、様々な画期における学生たちの姿を紹介していました。展示資料は各大学が持ち寄ったものです。図録を刊行しています。

Tel: 03-3296-4448 Fax: 03-3296-4365

<https://www.meiji.ac.jp/museum/exhibition/exhibition2015.html>

### 立教学院展示館：東京

第1回企画展「戦時下、立教の日々―変わりゆく「自由の学府」の中で」が2015年7月21日～9月4日と10月1日～12月8日の会期で開催されました。戦争は、立教生や地域の人々の生活、人生をどのように変えたのか。本企画展では、戦時下の学園生活や地域の様子など、現代を生きる児童や生徒、学生にとって身近なテーマを、オリジナル史料やグラフィック、当時の映像などを駆使して描き出していました。展示では、立教学院が所蔵する記録のほか、校友や関係者から近年寄贈された資料、知覧特攻平和会館やアメリカ国立公文書館所蔵の写真などさまざまな資料を、解説文を添えて紹介していました。通常は礼拝堂(チャペル)内部に掲げられている立教関係戦没者のタブレットも特別展示していました。さらに、戦争末期の池袋空襲にまつわる文書や、立教大学近隣に住んでいた推理作家・江戸川乱歩が残した資料なども公開していました。本企画展を通し、児童・生徒・学生、そして社会一般が戦争を振り返り、戦争による代償の大きさを理解し、平和の大切さについて考える機会となることを願って開いたものです。展示リストを作成しています。

Tel: 03-3985-2202

<http://www.rikkyogakuin.jp/hfr/>

### 早稲田大学大学史資料センター：東京

2015年度春季企画展「戦後70年 学徒た

ちの戦場」が2015年3月25日～4月25日の会期により、早稲田キャンパス2号館会津八一記念博物館企画展示室で開催されました。今回の企画展の趣旨は、戦争や学徒たちの戦死を、悲劇や英雄譚として語り継ぐのではなく、自らの死と向き合うことを余儀なくされた学徒たちの姿を直視し、彼らやその家族をそのような境遇に追い込んだ戦争の本質をあらためて問う契機となることでした。構成はⅠ“日常”から戦場へでは1941年を境に大きく変化した戦争と学生を紹介していました。Ⅱ戦場の学徒たちでは戦場における学徒たちと内地の家族や友人との往復書簡・葉書を展示していました。Ⅲ戦場から“日常”へでは、戦死通知書や戦死した学徒の家族や友人たちの残した書簡とともに、生還した学徒たちの困難や“死に切れなかった”ことの悔い、戦死した学友への謝罪の意識を紹介していました。図録を刊行しています。

Tel: 042-451-1343 Fax:

042-451-1347

<http://www.waseda.jp/culture/archives/>

### 早稲田大学 125 記念室：東京

「真実を伝え続ける絵画-アウシュヴィッツに生きたM・コシチュルニャック展」が2015年3月24日～4月23日の会期により、125記念室で開催されました。コシチュルニャックら何人かの収容者たちは、見つければ殺されるのを覚悟で収容所の実態を描きました。その絵は、単に悲惨さを描いたものでなく、地獄のような場であっても、消し去ることのできない人間の尊厳と創造の喜びを伝えています。コシチュルニャック夫人は、「次の世代に二度と同じ過ちを繰り返してほしくないという亡夫のメッセージを日本人に・・・」と、絵画19点を野村路子さん(作家・早稲田大学卒)に託しました。これらは野村さんのもとで、大切に保管されてきました。戦争終結から

70年の今年、野村さんは画家の故国であるポーランドに絵画を帰らせたいと決めましたが、その前に日本の若い世代に見て、知ってもらいたいとの願いから、早稲田大学にて展覧会を開催することになりました。

Tel: 03-5272-4783 Fax: 03-5272-4784  
<http://www.waseda.jp/jp/campus/honjo.html>

### 東京都公文書館：東京

戦後70企画展示「戦時下の東京—文書が伝える戦争の時代」が2015年8月3日～28日の会期により展示コーナーで開催されました。主な展示内容は日中戦争下の東京では、震災からの復興／日中戦争の展開／戦時下の経済と産業／戦時体制の整備と市民のくらしが、太平洋戦争下のくらしでは、太平洋戦争の勃発／総動員される市民生活／東京都の誕生／防空政策の展開／空襲への備え—疎開／空襲下の都民／終戦と占領をそれぞれ紹介していました。また、紀元2600年事業と東京では、幻の東京オリンピックと万国博覧会、紀元2600年記念東京市作成レコードなどを展示していました。解説資料を作成していません。

Tel: 03-3707-2601  
[http://www.soumu.metro.tokyo.jp/01soumu/archives/04tenji\\_kouen.htm](http://www.soumu.metro.tokyo.jp/01soumu/archives/04tenji_kouen.htm)

### 国立公文書館：東京

第2回企画展「昭和20年—戦後70年の原点」が2015年7月25日～8月29日の会期により1階展示場で開催されました。本展では、1945年の様々な出来事を月ごとに紹介し、戦後70年の原点となった1年間を描いていました。主な展示物は終戦の詔書、海軍大将男爵鈴木貫太郎を総理大臣に任命、治安維持法の廃止の件でした。

Tel: 03-3214-0621  
<http://www.archives.go.jp/>

### 板橋区立美術館：東京

館蔵品展「近代日本の社会と絵画 戦争の表象」が2015年4月11日～6月7日の会期で開催されました。第二次世界大戦中、日本の美術界では、出版や言論と同様に、発表する画題や表現方法に制限が加えられ、画家たちは自由な制作、発表活動が難しくなりました。そのような状況の中にもありながらも、新人画会を結成した麻生三郎や松本竣介をはじめ、戦争とは直接関係のない、自分たちの絵画を発表しようと奮闘した画家たちもいました。また、兵士として従軍した画家たちの中には、山本日子士良や古沢岩美のように、戦地となった中国の風景や仲間の兵士たちの姿をスケッチした者もいました。そして終戦後、従軍や外地での捕虜生活など、様々な形で戦争を体験した画家たちにより、改めて戦争をテーマにした作品が描かれました。本展は、当館のコレクションの中から、油彩画、デッサン、戦地のスケッチなどを紹介し、芸術家たちがどのように戦争と向き合い、表象したのかを作品や言葉、関連資料から考える展覧会でした。資料リストを刊行しています。

関連して記念講演会が2015年5月10日に1階講義室で開かれ、小沢節子（近現代史研究者）さんが「予兆と現実、そして想起・戦争を描いた画家たち」と題して講演しました。

Tel: 03-3979-3251 Fax: 03-3979-3252  
<http://www.itabashiartmuseum.jp/exhibition/ex150411.htm>

### アースプラザ：横浜市

【戦後70年 特別企画】特別展示「わたしたちの暮らしと戦争」が2015年5月29日～8月30日の会期により5階国際平和展示室の中で開催されました。あーすぷらざ収蔵品・当館ボランティアから預かった品

など、戦時中の人々の暮らしに関かかわる品々を展示していました。

Tel:0570-073-489 Fax:0570-037-489  
<http://www.earthplaza.jp/>

### 川崎市平和館：神奈川

2014年度「川崎大空襲記録展」が2015年3月14日～5月6日の会期により1階 屋内広場で開催されました。改めて戦争の悲惨さを伝えるとともに、平和に対する理解を深めることを目的に、平和館の開館日である川崎大空襲の日（4月15日）を中心として、川崎大空襲の記録及び「空襲」に関するパネル及び現物資料の展示を行いました。展示目録を作成しています。

2015年度「原爆展・特別展—原爆と沖縄戦」が2015年8月1日～30日の会期により1階 屋内広場で開催されました。広島・長崎の原爆被害の状況を撮影した写真パネルのほか、沖縄戦やひめゆり学徒の写真パネルや現物資料を展示していました。

Tel:044-433-0171 Fax:044-433-0232  
<http://www.city.kawasaki.jp/shisetsu/category/21-21-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0.html>

### 明治大学平和教育登戸研究所資料館：神奈川・川崎市

第6回企画展「NOBORITO 1945 — 登戸研究所 70年前の真実」の＜第一期＞が2015年8月5日～2016年3月26日の会期で開催されています。70年前、戦争が終結した年、陸軍登戸研究所では、実にさまざまなことが行われました。まず、「本土決戦」をひかえて、4月まで大規模に風船爆弾の作戦が実施されました。作戦終了後の4月29日には登戸の本部で分散・疎開（移転）のための式典が行われ、5月には登戸研究所の本部と第一科（風船爆弾・電波兵器）と第二科（毒物・爆薬・生物兵器）は長野県に移りました。一方で第三科（偽札製造）は生田に残りました。長野に拠点を

移した登戸研究所は、〈本土決戦〉用の新兵器（く号・ね号など）の開発と、遊撃隊が使用する破壊工作用の兵器（時限爆弾・焼夷弾など）の量産を進めました。しかし、戦争は日本の敗北に終り、登戸研究所は解散となり、長野と生田の登戸研究所では、膨大な証拠物件と兵器類の焼却・破壊が進められました。その後研究所の各施設は、米軍が接收し、関係者は米軍の尋問を受けました。今回の企画展の第一期では1945年8月15日までの登戸研究所の活動実態と兵器開発・生産に焦点をあて、当時の貴重な現物展示をまじえて、70年前の登戸研究所の真実を明らかにしています。

企画展記念講演会の第一回、山田 朗館長の「NOBORITO 1945—8月15日までの登戸研究所」が2015年8月22日に生田キャンパス第二校舎2号館2001番教室で開催されました。

Tel:044-934-7993  
<http://www.meiji.ac.jp/noborito/info/2015/6t5h7p00000ivnb7.html>

### 神奈川県立歴史博物館：横浜市

「陸にあがった海軍—連合艦隊司令部日吉地下壕からみた太平洋戦争」が2015年1月31日～3月22日の会期により特別展示室・コレクション展示室で開催されました。連合艦隊司令部日吉地下壕、戦艦大和、神風特攻隊、横浜空襲などの資料を展示していました。図録を刊行しています。

Tel:045-201-0926 Fax:045-201-7364  
<http://ch.kanagawa-museum.jp/>

### 横浜市史資料室：神奈川

展示会「戦争を知る、伝える—横浜の戦争と戦後」が2015年7月18日～9月23日の会期で開催され、市民から寄せられた空襲の体験記、戦中の暮らしや空襲の被害などを撮影した写真やスケッチ、戦地から

の手紙など戦中・戦後の暮らしに関わる様々な資料 169 が展示されました。展示目録を作成しています。

関連してシンポジウム「空襲の記録―証言・写真・米軍資料」が 2015 年 8 月 29 日に中央図書館地下 1 階ホールで開かれました。問題提起が横浜市史資料室の羽田博昭さんと東京大空襲・戦災資料センターの山辺昌彦さんからあって、この 2 人に横浜空襲を記録する会の小野静枝さんと福井経正さんの 2 人が加わってのパネルディスカッションもありました。

Tel : 045-251-3260 Fax :  
045-251-7321

<http://www.city.yokohama.lg.jp/somu/org/gyosei/sisi/>

### 横浜都市発展記念館：神奈川

特別展「戦後 70 年 時計屋さんの昭和日記 一青年のみた戦中戦後の横浜」が 2015 年 4 月 25 日～6 月 28 日の会期により 3 階企画展示室で開催されました。長野の伊那谷から横浜・根岸の時計店にやってきた少年は自分の時計店を開きましたが、横浜にやってきたその日から、1994 年に 76 歳で亡くなる前日まで日記をつけていました。この日記をもとに、戦争を挟んだ激動の時代（1930～51 年頃）の横浜のくらしと世相を、一人の青年の視点から追った展示でした。警察官が横浜大空襲の直後に撮影した被害写真も初公開していました。図録を作成しています。内容構成は以下の通りです。

プロローグ 飯田から横浜へ

1. モダン都市横浜
  - 時計店のくらし
  - モダンな横浜の街で
2. 「戦争の時代」の日常生活
  - 出征の風景
  - 軍事教練
  - 少なくなるモノ
  - 青年団と隣組

### 3. 戦争の激化

- 空襲への備え―警防団―
- 横浜の空襲

### 4. 接収と復員

- 占領軍の進駐と接収
- 復員
- 苦しい食事情

### 5. 新たな家族を迎えて

- 結婚
- 接収解除へ
- エピローグ 根岸線とオリンピック

Tel : 045-663-2424

<http://www.tohatsu.city.yokohama.jp/index.html>

### 愛川町郷土資料館：神奈川

企画展「戦争の記憶 戦後 70 年」が 2015 年 7 月 18 日～2015 年 8 月 31 日の会期により企画展示室・エントランスホールで開催されました。展示内容は「相模陸軍飛行場」「出征兵士」「銃後の守り」「復興への足音」4 コーナーを中心とするものでした。

Tel : 046-280-1050

<http://www.town.aikawa.kanagawa.jp/shisetsu/bunka/1427771495906.html>

### 小田原市郷土文化館：神奈川

戦後 70 年特集展示「戦時下の小田原と箱根療養所」が 2015 年 7 月 18 日～10 月 4 日の会期により 1 階展示室で開催されました。戦時下の小田原について振り返るとともに、戦傷病者の療養所であった市内風祭の箱根療養所（現在の「箱根病院 神経筋・難病医療センター」）についても紹介していました。

関連して戦後 70 年特別講演会「終戦当日の小田原空襲」が 2015 年 8 月 15 日に市民会館 6 階 第 6 会議室で、井上 弘さん（戦時下の小田原地方を記録する会）を講師に開かれました。

Tel : 0465-23-1377

<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/public-i/facilities/kyodo/topics/tokusyu.html>

#### 川崎市市民ミュージアム：神奈川

近代・現代特集展示「川崎大空襲」が 2015 年 3 月 17 日～5 月 15 日の会期で開催されました。

近代・現代特集展示「終戦 70 周年—part2 戦時下の川崎」が 2015 年 5 月 23 日～8 月 21 日の会期で開催されました。戦地へ赴いた兵士の遺品や千人針など、当時の資料から太平洋戦争期の川崎地域をみていくものでした。あわせて、登戸研究所関連の資料も紹介していました。

Tel:044-754-4500 Fax : 044-754-4533

<http://www.kawasaki-museum.jp/>

#### 茅ヶ崎市文化資料館：神奈川

戦後 70 年企画展 「写真とことばが伝える戦中・戦後の茅ヶ崎」が 2015 年 8 月 8 日～10 月 12 日の会期で開催されました。戦後 70 年を迎えるにあたり、戦争を経験された方の「ことば」や当時の写真、資料を展示し、戦中・戦後の茅ヶ崎のまちの様子や人々のくらしを紹介するものでした。展示している資料は、市民から寄贈されたものでした。

Tel : 0467-85-1733 Fax :

0467-85-1733

<http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/koho/1002784/1014444.html>

#### 平塚市博物館：神奈川

「平塚空襲 70 周年」展 が 2015 年 7 月 16 日～9 月 3 日の会期により 1 階の寄贈品コーナーと 2 階の情報コーナーで開催されました。平塚空襲の概要・実態を紹介するとともに、平塚鵜の空襲と戦災を記録する会の調査結果をあわせて展示していました。

Tel : 0463-33-5111 Fax :

0463-31-3949

[http://hirahaku.jp/gyouji\\_annai/index.html](http://hirahaku.jp/gyouji_annai/index.html)

#### 横浜美術館：神奈川

コレクション展 2015 年度第 2 期、戦後 70 年記念特別展示「戦争と美術」が 2015 年 7 月 11 日～10 月 18 日の会期で開催されました。館が所蔵する 20 世紀美術を通して、戦争の前後を生きたさまざまな分野の美術家たちの創作を紹介するとともに、ヨーロッパ、そしてとりわけ日本における美術と戦争との関わりについて、写真や雑誌・書籍等の資料を交えて振り返るものでした。第 I 章 不穏な風景—1920 年代から第二次世界大戦までの前衛美術と戦争—では、プロレタリア美術、フォーヴィスム、シュルレアリスム、「戦争画」などを紹介していました。第 II 章 焼け跡から—日本の戦後美術にみる戦火の記憶と傷跡—では戦争の悲惨さ、愚かさを風化させないため、それぞれが体験し、苦悶した戦中・戦後の記憶を刻んだ、画家・写真家たちの作品を紹介していました。木村伊兵衛が撮影した戦後直後の東京の写真も展示していました。第 III 章 ふたたびの「前衛」—戦後日本美術の新たな展開—では、戦争による断絶を経て、ふたたび「前衛」を標榜した美術家たちの作品を紹介していました。

Tel : 045-221-0300 Fax : 045-221-0317

<http://yokohama.art.museum/exhibition/index/20150711-455.html>

#### 長岡戦災資料館：新潟

長岡空襲の体験記録 VI を 2015 年 3 月に発行しました。

Tel : 0258-36-3269

<http://www.city.nagaoka.niigata.jp/kurashi/cate12/sensai/siryoukan.html>

## 新潟市歴史博物館（みなとびあ）：新潟

第12回むかしのくらし展「戦争でかわったわたしたちのくらし」が2015年9月12日～12月6日の会期により1階の企画展示室で開催されました。戦後70年を迎えることを機に、戦争と新潟市民のくらしとの関わりを関連資料の展示を通じて紹介していました。

関連して、博物館講座が2015年9月27日に2階セミナー室で開かれ、伊東祐之副館長が「戦争下の新潟市と市民生活」の題で講演しました。

Tel : 025-225-6111 Fax :  
025-225-6130

<http://www.nchm.jp/>

## 新潟大学旭町学術資料展示館：新潟・新潟市

企画展「戦争の記憶－戦後70年をふりかえって」が2015年6月3日～7月12日の会期により1階の企画展示室で開催されました。市井に残る戦争の記憶をとどめた“戦争遺物”や“戦争遺跡”から戦争の悲惨さ、平和の尊さをかみしめるものでした。

Tel : 025-227-2260

<http://www.lib.niigata-u.ac.jp/tenjikan/>

## 福井市立郷土歴史博物館：福井

館蔵品ギャラリー「福井空襲70年」が2015年7月15日～8月23日の会期で開催されました。

Tel : 0776-21-0489 Fax :  
0776-21-1489

<http://www.history.museum.city.fukui.fukui.jp/>

## 鯖江市まなべの館：福井

企画展「鯖江の近代史と歩兵第36連隊」の第1期「鯖江の近代化と連隊の創設」が2015年5月12～17日の会期により1階展

示ホール2で開催されました。日清戦争期に創設された歩兵36連隊は翌年に鯖江のまちに入りました。本企画展では激動の近代、連隊とともに発展した神明地区の歴史を探っていました。

企画展「鯖江の近代史と歩兵第36連隊」の第2期「太平洋戦争と戦時下の暮らし」が2015年8月4～9日の会期により1階展示ホール2で開催されました。日中戦争・太平洋戦争期、敗戦の色が濃くなるにつれて連隊のまち・鯖江でも人々は大変な苦勞を強いられました。苦難の歴史と、現在にいたる平和への歩みを伝えていました。今回は市民から寄せられた資料など約100点を展示。日中戦争期の軍事郵便は検閲を意識し、「〇〇に向かっている」と現在地を伏せています。新横江村（現鯖江市）で徴兵事務を担当した兵事係の男性の遺族が保管していた391枚の召集令状が壁一面に並びました。

Tel : 0778-51-5999

<http://www.asahi.com/articles/ASH8744S0H87PGJB00D.html>

## 山梨県立考古博物館：甲府市

夏季企画展「近代山梨の遺跡と遺物－養蚕・舟運・堤防・戦争」が2015年7月18日～8月30日の会期で開催されました。

Tel : 055-266-3881 Fax :  
055-266-3882

<http://www.pref.yamanashi.jp/kouko-hak/special/specialtop.html>

## ミュージアム都留：山梨

2015年度企画展「戦後70年 都留・あなたがみつめる戦争」が2015年7月25日～9月13日の会期で開催されました。都留の人々が戦場に出征し、あらゆる世代が、戦争を日常として見つめ、生きた時代は確かに存在していました。こうした事実を、当時の写真や資料、戦時の記憶などを通し

て知り、現代と比較しながら、改めて戦争を見つめ、考える機会として活用してもらうために開かれました。展示内容は次の3章でした。第1章 都留から戦地へ /出征の資料・写真を通して軍隊、戦地に赴く都留の人々を見つめます。第2章 戦時中の都留の人々 /生活用品などの資料を通して戦時中の暮らしや人々の様子を見つめます。第3章 戦後の「戦争」 /都留から見つける現在の戦争 山本美香さんの撮影した戦地の写真を通して、現在の戦争と平和を見つめます。展示リストを作成していました。

Tel: 0554-45-8008 Fax:  
0554-45-8201  
[http://www.city.tsuru.yamanashi.jp/forms/info/info.aspx?info\\_id=5989](http://www.city.tsuru.yamanashi.jp/forms/info/info.aspx?info_id=5989)

#### 中央市豊富郷土資料館：山梨

2015年度第2回企画展「中央市のアジア太平洋戦争―戦後70年を迎えて」が2015年6月20日～9月27日の会期で開催されました。中央市の人々も戦争中、軍人として中国や朝鮮・満州・蒙古に出かけ、多くの人々がなくなりました。また、満蒙開拓団として大陸に移住し、敗戦後、帰国のため大変な苦労を重ねた人々がいました。

Tel:055-269-3399  
<http://www.city.chuo.yamanashi.jp/sougou/info.php?id=5098>

#### 長野県立歴史館：千曲市

戦後70年企画「長野県民の1945―疎開・動員体験と上原良司」が2015年7月25日～9月15日の会期で開催されました。展示は、長野市、上田市など県内各地への空襲、兵士や従軍看護婦としての動員、特攻隊員として戦死した上原良司（現安曇野市出身）の平和へのメッセージ、軍機関や工場、県外からの学童や多くの人びとの疎開、という四つのテーマで構成していま

した。平和を守り、戦争の惨禍を二度と繰り返さないためには、いかに後世に戦争の記憶を伝えていくかが重要なので開催したものです。

関連して、講演会が2015年7月25日に「長野県と県民の1945」の題で上條宏之長野県短期大学学長を講師に開かれました。

Tel: 026-274-2000 Fax: 026-274-3996  
<http://www.npmh.net/exhibition/kikaku.php?m=2&n=178>

#### 松本市立博物館：長野

「戦争と平和展」が2015年8月1日～23日の会期で開催されました。

Tel : 0263-32-0133  
<http://www.city.matsumoto.nagano.jp/sisetu/marugotohaku/siritu/>

#### 日本ラジオ博物館：長野・松本市

第5回特別展「ラジオと戦争」が2015年7月4日～12月27日の会期で開催されています。先の大戦はラジオが迎えた最初の大戦争でした。1936年の二・二六事件の際に反乱軍に投降を呼びかけた「兵に告ぐ」から、現在では誇大な発表の代名詞ともなった「大本営発表」の戦果ニュース、命がかかった空襲警報、そしてラジオ放送が戦争を終わらせた「玉音放送」まで、この戦争にはラジオが大きな役割を果たしました。戦後70年および放送開始90年の節目の年に当たる今年、日本ラジオ博物館では、特別展として、戦時下と終戦直後の復興期のラジオ及び関連資料を展示し、戦争の時代を戦争におけるラジオの役割という観点から考える展示としています。特に玉音放送については特別にコーナーを設けて貴重な資料を展示しています。また、戦時中だけでなく、戦後復興期のラジオ及び資料を併せて展示することで、時代の大転換を日本人がどのように乗り越え、今の日本の原点となったかを考える展示にしています。

Tel : 0263-36-2515  
<http://www.japanradiomuseum.jp/gaiyou.html>

### 伊那市創造館：長野

特別展「戦時中の資料に残る生活の記録」が2015年8月8日～9月14日の会期により1階特別展示室で開催されました。伊那市創造館に収蔵されている戦時中の資料の中には、当時の人々の様子を取り上げたグラフ誌の記事や、日常で使われていた教科書や書籍など、生活に関わるものもたくさんあります。こういったものは、日本の歴史を知る上でも、たいへん価値のある資料といえます。今回の特別展では、日中戦争やアジア・太平洋戦争中の一般国民、いわゆる「銃後」の人々の生活に関する資料を中心に展示し、戦時中の世相との関わりを解説していました。

Tel : 0265-72-6220 Fax : 0265-74-6829  
[http://www.inacity.jp/shisetsu/library\\_museum/inashisozokan/tenji\\_1/seikatsunokirokuten.html](http://www.inacity.jp/shisetsu/library_museum/inashisozokan/tenji_1/seikatsunokirokuten.html)

### 大桑村歴史民俗資料館：長野

戦後70年記念展「あのころの記憶展」が2015年8月11日～30日の会期で開催されました。貴重な情報を少しでも多く集め残そうと計画し、仕事・家族・食事・学校生活・子育て・あそびなど、日常の生活に焦点をあて、終戦記念日に合わせ、住民から寄せられた戦前・戦中・戦後の情報、品物、写真の展示しました。

Tel : 0264-55-13550 Fax :  
0264-55-2607  
<http://www.vill.ookuwa.nagano.jp/kyouiku/kyouiku/anokoronokioku.html>

### 岐阜市歴史博物館：岐阜

企画展「戦争と岐阜ー戦後70周年」が2015年8月5日～9月23日の会期で開催

されました。戦争は人々の生活に大きな影響をもたらしました。岐阜市では1945年7月に空襲があり、市街地の大部分が焼け野原になり、甚大な被害がありました。戦争と生活が切り離せない時代でした。本展は、戦後70年を迎える年に、失われていく戦争中の記憶を後世に伝え、戦争と平和について考える展覧会でした。展示目録を作成しています。

Tel : 058-265-0010 Fax : 058-265-0106  
<http://www.rekihaku.gifu.gifu.jp/tennrankai.html>

### 揖斐川歴史民俗資料館：岐阜

企画展「戦争とふるさとの暮らし」が2015年7月28日～8月30日の会期で開催されました。防毒面、防空頭巾など戦時下に使われたさまざまな日用品を展示していました。

Tel : 0585-22-5373  
<http://www.town.ibigawa.lg.jp/0000001300.html>

### 各務原歴史民俗資料館：岐阜

特別企画展「戦後70年 明日の各務原市へ」が2015年8月8日～16日の会期により産業文化センター あすかホールで開催されました。市内に飛行場を持つ各務原市も、戦争の影響を強く受けた街のひとつです。あの大战は、各務原にとってどんな意味を持っていたのでしょうか。初公開を含む特別展示品は、・複葉機（甲式四型戦闘機）プロペラと主車輪・フランス空軍の主力戦闘機スパット号の5分の1模型・戦時中の飛行場と軍施設、工場群のジオラマ・三式戦闘機キ61「飛燕」部品（スピナー・カウリング・主車輪）・「飛燕」の18分の1模型・四式戦闘機キ84「疾風」の主車輪・鶉沼大伊木町に残る1945年4月～5月製の防火水槽・川崎重工業ボイラー室の弾痕の

残る鉄骨・航空機の搭載機銃に関わる弾薬箱・駄載用小銃弾薬箱・戦時下の食品サンプル・2トン、1トン、250キログラム爆弾の模型(2トン爆弾は平面図)などでした。

Tel : 058-379-5055

<http://www.city.kakamigahara.lg.jp/4033/4065/013738.html>

#### 静岡平和資料センター：静岡市

企画展示「浦上喜平が演じ、残した昭和の紙芝居」が2015年4月10日～8月30日の会期で開催されました。

戦後70年展示「戦争と静岡」展が2015年8月12日～16日会期により静岡市民ギャラリーで開催されました。

所蔵資料図録が2015年8月12日に発売になりました。

企画展示「静岡・清水空襲の記憶と現代の戦争展」が2015年9月18日～2016年1月24日の会期で開催されています。

Tel& Fax : 054-271-9004

<http://homepage2.nifty.com/shizuoka-haiwa/youkoso.html>

#### 静岡市文化財資料館：静岡

戦後70年企画「静岡の戦争—静岡市の戦争資料展」が2015年7月25日～8月30日の会期で開催されました。出征して南方や大陸で命を落とされた方々、戦時を支えるため多くの犠牲を払った内地の人々。戦争は、一般市民の日々の暮らしに大きな影響を及ぼしました。今回の企画展では、静岡市内に残された戦争資料を通して、主に戦時下の市民の「銃後の暮らし」を中心に紹介していました。また、戦後GHQにより接收され、長い年月ののちに郷土に里帰りした「赤羽刀」も展示していました。この企画展が戦争の恐ろしさ、平和の尊さを改めて考える機会とすることが趣旨でした。展示リスト作成を作成しています。

Tel& Fax : 054-245-3500

<http://shizubunkyo.cocolog-nifty.com/blog/2015/07/70-bea7.html>

#### 島田市博物館：静岡

第65回企画展「島田と太平洋戦争—明日へと語り継ぐ願い」が2015年7月11日～8月30日の会期により特別展示室で開催されました。島田空襲や第二海軍技術廠実験所など当時の資料を中心に紹介していました。分館でも戦争資料を展示していました。図録と展示リストを作成しています。

Tel : 0547-37-1000 Fax : 0547-37-8900

[https://www.city.shimada.shizuoka.jp/hakubutsukan/hakubutu\\_top.html](https://www.city.shimada.shizuoka.jp/hakubutsukan/hakubutu_top.html)

#### 沼津市明治史料館：静岡

終戦70周年特別展「市民が見た昭和の戦争」が2015年7月1日～8月30日の会期で開催されました。市民有志の作成による焼夷弾模型の展示などを展示していました。

Tel : 055-923-3335 Fax : 055-925-3018

<http://www.city.numazu.shizuoka.jp/ku-rashi/shisetsu/meiji/>

#### 菊川市立図書館菊川文庫：静岡

菊川市戦争体験を伝える会による特別展示「郷土と戦争」が8月5日～23日の会期により2階展示室で開かれました。同会が発足した30年前から続く夏の恒例展示で、市内の慰霊碑の写真や会員が手掛けた戦跡マップなど、同市の太平洋戦争の歴史を伝える資料が並び、空襲に備えて当時の住民が掘った市内の防空壕や牧之原台地にあった大井海軍航空隊の跡地の写真が展示され、市内に集団疎開していた児童が描いた絵日記もありました。

Tel : 0537-36-2220

<http://www.at-s.com/news/article/local/west/62553.html>

## IZU PHOTO MUSEUM : 静岡

「戦争と平和 伝えたかった日本」が2015年7月18日～2016年1月31日の会期で開催されています。戦中・戦後の〈報道写真〉をテーマにした展覧会です。ドイツの「ルポルタージュ・フォト」を移入して始まった日本の〈報道写真〉は、モダニズムの先鋭として発展し、日本文化を海外に紹介するために用いられましたが、戦争の激化にともないプロパガンダに変容し、占領期・冷戦期の情報戦にも一定の役割を果たしてきました。本展では名取洋之助・木村伊兵衛・土門拳・山端庸介・小柳次一・菊池俊吉・林重男ら日本の〈報道写真〉の担い手たちの仕事を中心に、国内外の雑誌や写真壁画、密着帖など1930年代から50年代にかけての貴重な資料約1000点を紹介しています。〈報道写真〉の戦前から戦後への連続性や国策との関わりをテーマに戦後70年特別企画として開催したものです。

Tel : 055-989-8780 Fax :  
055-989-8783

<http://www.izuphoto-museum.jp/exhibition/178560828.html>

## 愛知・名古屋 戦争に関する資料館 : 名古屋市

愛知・名古屋 戦争に関する資料館が愛知県庁大津橋分室1階に2015年7月11日に開館しました。太平洋戦争当時の市民の暮らしぶりや空襲の被害などを展示し、戦争の体験を次代に引き継ぎ、戦争の残した教訓や平和の大切さを学び、平和を希求する豊かな心を育むことを目的とした施設です。運営主体は 戦争に関する資料館運営協議会(愛知県・名古屋市が共同で設置・運営)です。

Tel : 052-957-3090

<http://www.pref.aichi.jp/>

## 安城市歴史博物館 : 愛知

企画展「わたしの見た戦争―戦時下の子どもたち」が2015年7月18日～8月30日の会期で開かれました。今回は、当時の戦争、社会、暮らしを子どもの視点に立ち展示していました。図録を作成しています。

Tel : 0566-77-6655 Fax :  
0566-77-6600

<http://www.katch.ne.jp/~anjomuse/>

## 一宮市博物館 : 愛知

企画展「合併10周年いちのみやのあゆみ」が2015年4月25日～5月31日の会期で開催されました。一宮市・尾西市・木曾川町が合併してから10年。この節目の年に、明治・大正・昭和・平成から5つのトピックスを取り上げ、「いちのみやのあゆみ」を当時の記録や写真を中心に紹介していました。いちのみやの空襲もあつかっていました。

Tel : 0586-46-3215 Fax : 0586-46-3216  
<http://www.icm-jp.com/riyo/index.shtml>

## 蒲郡市博物館 : 愛知

戦後70周年コーナー展示「戦地からの手紙」が2015年7月18日～8月30日の会期により2階ロビー展示室で開かれました。

Tel : 0533-68-1881 Fax :  
0533-68-1880

<http://www.city.gamagori.lg.jp/site/museum/>

## 蒲郡市立図書館 : 愛知

戦後70年記念展「戦時下の暮らしと戦後復興のあゆみ」が2015年8月9日～26日の会期により展示コーナーで開かれました。戦後復興期のアメリカからの救援物資が入っていた袋と学校給食で使われた牛乳(脱脂粉乳)用のやかん、戦時下の豊川海軍工廠工員募集ポスターなど、戦中、戦後の世相を象徴する広告資料や生活道具などを展

示し、庶民の視点で人々が困難な時代から立ち上がるまでを振り返っていました。

Tel : 0533-69-3706 Fax :  
0533-69-0999

<http://www.city.gamagori.lg.jp/site/toshokan/samizomin27.html>

### 田原市博物館：愛知

夏の企画展「戦後 70 年 渥美半島と戦争」が 2015 年 7 月 18 日～8 月 30 日の会期で開催されました。渥美半島には、陸軍伊良湖射場をはじめとする戦争遺跡が残されています。本展では、戦後 70 年を契機に渥美半島と戦争との関わりを紹介していました。図録を作成していました。

Tel : 0531-22-1720 Fax :  
0531-22-2028

<http://www.taharamuseum.gr.jp/>

### 知立市歴史民俗資料館：愛知

企画展「終戦 70 年」戦争を忘れない」が 2015 年 7 月 18 日～9 月 6 日の会期で開催されました。展示資料の多くは、これまで市民から寄贈されたもので、戦争とはどのようなものか、当時の人々がどのように行動し生活していたかを理解し、先の戦争と現在の平和について、考えるきっかけとするために開かれたものでした。図録を作成していました。

Tel : 0566-83-1133 Fax : 0566-  
83-6675

<http://www.city.chiryu.aichi.jp/0000001799.html>

### 豊川市桜ヶ丘ミュージアム：愛知

「豊川海軍工廠展」が 2015 年 7 月 18 日～8 月 30 日の会期により第 5・6 展示室で開催されました。豊川海軍工廠は、海軍兵器の生産を目的として、1939 年に宝飯郡豊川町・牛久保町・八幡村にまたがって開庁しました。双眼鏡や機銃などを生産し、日本

最大の規模で、東洋一の兵器工場ともいわれました。しかし、1945 年 8 月 7 日の米軍 B29 爆撃機などによる空襲で壊滅的な被害を受け、2500 人以上が犠牲となりました。本展は、豊川市の歴史の中で重要な豊川海軍工廠のことや戦争について知ってもらうために毎年夏の時期に開催している展覧会です。今年も、館がこれまでに収集した「豊川海軍工廠の体験画」を一堂に展示していました。

Tel : 0533-85-3775 Fax :  
0533-85-3776

<https://www.city.toyokawa.lg.jp/event/bunka/kaiguun.html>

### 豊橋市美術博物館：愛知

「軍隊と豊橋」展 が 2015 年 5 月 29 日～6 月 28 日の会期で開催されました。豊橋には歩兵第 18 連隊や第 15 師団など軍関係の施設が置かれ、南部の高師原・天白原には広大な演習場がひろがっていました。本展では、豊橋に置かれた各部隊と、それと共に変化した町の様子を伝えていました。また、戦中の市民の暮らしや豊橋空襲を紹介し、平和の尊さを考える機会としていました。図録、展示リスト、戦争遺跡地図とパンフレットを作成していました。

Tel : 0532-51-2882  
[http://www.toyohashi-bihaku.jp/?page\\_id=32](http://www.toyohashi-bihaku.jp/?page_id=32)

### 名古屋城：愛知

特別陳列「天守にかける夢ー戦災焼失から 70 年」が 2015 年 3 月 21 日～5 月 10 日の会期により天守閣 2 階展示室で開催されました。市民の誇りであった天守は、今から 70 年前の 1945 年 5 月、戦災で焼失しました。今の天守は 1959 年に鉄骨鉄筋コンクリート造で再建されたものです。今回、戦災焼失 70 年を期に、400 年間にわたる名古屋城天守の歩みを示していました。名古屋市

は1932年から、名古屋城の国宝建造物の実測調査を開始し、279枚の実測図が作成されました。戦災で多くの建物が焼失してしまいましたが、それらの姿を詳しく知りうる、絶好の資料となっています。

Tel : 052-231-1700

[http://www.nagoyajo.city.nagoya.jp/02\\_events/26/270321/index.html](http://www.nagoyajo.city.nagoya.jp/02_events/26/270321/index.html)

### 名古屋市美術館：愛知

「画家たちと戦争—彼らはいかにして生きぬいたのか」が2015年7月18日～9月23日の会期で開催されました。画家は、彼らが生きている社会と時代の動向に大きな影響を受けています。そのなかでも「戦争」は、画家の芸術にとって圧倒的な事件として存在しています。日本の近代美術の歴史において、1931年の満州事変から始まり、1945年の太平洋戦争に終わった十五年戦争が画家たちに与えた影響は極めて重大です。本展では、この戦争の時代を生きぬいた代表的な画家たち（洋画家、日本画家、版画家の総計14名）に注目して、狭義の意味での戦中期（1937～1945年）を挟んで、戦前期（～1937年）と戦後期（1945年～）の各時期に制作された作品（基本的に各3点、総計9点）を一堂に展示して、作品の変遷を展望することで、彼らが戦争を「いかにして生きぬいたのか」について検証しようとするものでした。戦後70年を迎える本年、不幸にも戦争の時代を生きなければならなかった画家たちが制作した作品を通して、「戦争とはどのようなものなのか」「戦争を生きぬくというのはどのようなことなのか」を考える機会とするために開かれたものです。

Tel : 052-212-0001 Fax :  
052-212-0005

<http://www.art-museum.city.nagoya.jp/tenrankai/2015/worldwar2/>

### 三重県総合博物館：津市

戦後70周年記念事業 トピック展示「みんなの近くにも戦争のキズあとがある—1945 平和がこわれていた頃の記憶」が2015年6月6日～28日の会期により2階交流展示室で開かれました。第2次世界大戦の終戦から70周年を迎え、戦争の悲惨さ、平和の尊さなどについて、三重県総合博物館収蔵資料をはじめ、県内各所に残る戦争関連資料などにより、紹介していました。

Tel : 059-228-2283 Fax : 059-229-8310

[http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/temporary\\_exhibitions/temporary\\_exhibitions\\_H27/peace.htm](http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/temporary_exhibitions/temporary_exhibitions_H27/peace.htm)

### 多気町多気郷土資料館：三重

第83回企画展「少国民と呼ばれた時代」が2015年7月10日～9月20日の会期で開催されました。子どもたちを「少国民」と呼んだ戦時下の暮らしをたどっていました。カルタ・軍人将棋・紙芝居などの遊び、建国体操・慰問の手紙・勤労働員など学校での様子を展示していました。

Tel : 0598-38-1132

[https://www.town.taki.mie.jp/category\\_list.php?frmCd=4-3-0-0-0](https://www.town.taki.mie.jp/category_list.php?frmCd=4-3-0-0-0)

### 四日市市立博物館：三重

博物館の2階に「四日市公害と環境未来館」が2015年3月21日に開館しました。

学習支援展示「四日市空襲と戦時下の暮らし」が2015年6月13日～8月30日の会期で開催されました。3階ロビーでは「四日市空襲を語り継ぐ」として防空壕模型、焼夷弾の実物や模型、空襲前後の写真体験者の話のパネルを展示し、3階時空街道展覧処の白里亭では「出征兵士と少国民」として学習や遊びに盛り込まれていた戦争などを展示し、2階の「四日市公害と環境未来館」の昭和のくらしの原寸大再現展示の中に「戦時下のくらしの工夫」として戦争

によって道具が制限された不便さとそれに対する工夫を展示し、2階の「四日市公害と環境未来館」の「四日市空襲のパネルと映像展示」との4つの展示がありました。

Tel: 059-355-2700 Fax: 059-355-2704

<http://www.city.yokkaichi.mie.jp/museum/museum.html>

### 滋賀県平和祈念館：東近江市

第10回企画展示「収蔵品が語る 戦時の想い」が2015年1月7日～6月21日の会期で開催されました。これまで収集・保存してきた資料が語る戦時の想いに焦点をあてて展示していました。

第11回企画展示「滋賀県民の15年戦争」が2015年6月27日～9月27日の会期で開催されました。昭和前半期に日本がアジアと太平洋で戦った戦争では、多くの県民が苦難に満ちた日々をおくりました。国のために強いられた犠牲は戦地へおもむいた兵士・軍属とその家族ばかりか、全国民におよんだのです。払われた犠牲はあまりに大きく、その記憶は体験者のこころに深く刻まれるとともに、関わりのあるさまざまな品物として残されました。終戦から70年を経た今年、先の戦争が滋賀県民にとってどのようなものであったのかを体験談と品物を通してふりかえり、当時の苦難を思うとともに、現代の平和の尊さを改めて確認するものでした。

Tel: 0749-46-0300 Fax: 0749-46-0350

<http://www.pref.shiga.lg.jp/heiwa/heimuseum/>

### 長浜市浅井歴史民俗資料館：滋賀

企画展・第13回終戦記念展「くらしとものにみる昭和史」が2015年7月28日～9月13日の会期により郷土学習館1階展示室で開催されました。軽便防火ポンプ・防火訓練記録・戦闘機機体使用のジュラルミン製ちりとり・衣料切符・戦地からの手紙・

監的壕調査写真パネル・実践記録アルバム・七尾青年学校日誌・現品配給簿などの、国民生活に伴う「もの」を通して、昭和のくらしを紹介していました。

Tel&Fax: 0749-74-0101

<http://www.city.nagahama.shiga.jp/section/azairekimin/>

### 大津市歴史博物館：滋賀

第122回ミニ企画展「戦前から戦後の学校教育」が2015年7月28日～9月6日の会期で開催されました。1945年8月15日の終戦の日を挟んで、日本の学校教育の制度や内容は180度の転換を見せました。戦前から戦中にかけては、「御真影」や「教育勅語」の崇拜が義務づけられ、教育内容も、戦争の遂行が主な目的とされました。しかし終戦後には、戦前の学校教育が大きく見なおされ、GHQの指導を主として「民主教育」の徹底が図られたのです。学校教育の内容は180度の転換を見せました。本展では、子どもたちが学習した戦前の「国定教科書」や、日常生活の中で国策遂行のために作られた「戦時教育紙芝居」、瀬田国民学校の児童が描いた絵日記、また、戦後の学校教育を象徴する「墨塗り教科書」や戦後の一時期に発行された折りたたみ式の「暫定教科書」などを展示することで、子どもたちが体験した激動の時代の学校教育を紹介していました。

Tel: 077-521-2100 Fax: 077-521-2666

<http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/>

### 近江日野商人館：滋賀

戦後平和70年記念企画展「近江鉄道改札口から見る日野町と太平洋戦争」が2015年8月31日までの会期で開催されました。戦地に向かう父や夫、息子、兄、弟を見送り、若い女性が勤労学徒として軍事工場へ向かうために通った改札口。戦後は、戦死した人たちの遺骨を迎えるなど、近江鉄道

日野駅の改札口から見た戦時の記録と写真を並べていました。また、1944年から1945年の戦争末期、東桜谷国民学校（現在の桜谷小学校）に集団疎開していた大阪府中央区の集英国民学校（現在は開平小学校）の児童から届いた感謝の作文も展示されていました。戦争の悲惨さ、平和の尊さを感じてほしいとの趣旨で開かれものです。

Tel : 0748-52-0007 Fax :  
0748-52-0172  
[www.town.shiga-hino.lg.jp/category\\_list.php?frmCd=20-1-0-0](http://www.town.shiga-hino.lg.jp/category_list.php?frmCd=20-1-0-0)

### 栗東歴史民俗博物館：滋賀

特集展示「平和のいしずえ 2015—戦争と地域のくらし」が2015年8月22日～9月6日の会期で開催されました。栗東歴史民俗博物館では栗東市の「心をつなぐふるさと栗東」平和都市宣言をうけて、1990年度から戦争と平和をテーマとする「平和のいしずえ」展を開催してきました。これは市内外の所蔵者の方々から提供された資料を通じ、近代以降の戦争の歴史と戦時下の生活を再現することで、地域の視点から平和について考えようとするものです。今年度は、「戦争と地域のくらし」と題して、「家族の絆」をテーマに、戦争によって離れ離れになった家族の戦争体験を、主に地域からの視点で構成していました。また、太平洋戦争末期には、輸入がとだえたことによってガソリンが不足したため、代用品として「松根油」の生産が計画され、全国で原料となる松の根・松脂の採取が行われました。栗東市内でも、これらを採取するために山中で働いたという話が残っています。地元の人たちの調査によって、松脂採取のための傷が残る松の木や、松の根を掘り出した跡と思われる穴などが見つかっていますが、今回の展覧会にあわせて、これらの成果も紹介していました。展示構成は、1、出征兵士と家族の思い 2、総力体制下、地

域のくらし 3、敗戦、それから スポット展示 たたかう国の子どもたち でした。出品資料目録を作成しています。

Tel : 077-554-2733 Fax :  
077-554-2755  
<http://www.city.ritto.shiga.jp/hakubutsukan/>

### 京都市学校歴史博物館：京都

企画展「戦争と学校—戦後70年をむかえて」が2015年7月4日～10月6日の会期で開催されました。開戦後、学校はしだいに戦時色が強まっていき、1944年から本格的な学徒勤労動員、1945年から京都の学童集団疎開も始まり、終戦を迎えます。ただし「終戦」というのは、あくまで戦いが終わったということ。食糧不足、戦中戦後の学校再編、学童疎開・学徒勤労動員の経験、親の戦死など、戦争の影響や記憶は「戦後」も残り続けます。本展では、市内の小学校・中等教育の学校（今の中学・高校）を対象に、戦時下の学校生活がいかなるものであったのか、そして戦争が「戦後」の学校にどのような影響を与えたのかをふりかえるものでした。京都市の学校に遺されていたものや新たに市民から寄贈されたものなど写真・史料約141点を出品していました。展示資料リストを作成しています。

Tel : 075-752-7070 Fax : 075-752-5999  
<http://kyo-gakurehaku.jp/exhibition/h27/0704/index.html>

### 宇治市歴史資料館：京都

企画展「戦争遺品展—戦後70年」が2015年7月18日～9月6日の会期で開催されました。戦争の悲惨さや当時の暮らしを語り継ぐことは年々難しくなっています。しかし、改めてまわりを見つめてみれば、残されたものからさまざまなことを知ることができるのではないのでしょうか。ひとりひとりが、在りし日に想いをはせるきっかけ

けとなることを願って企画されたものでした。

Tel : 0774-39-9260

<https://www.city.uji.kyoto.jp/0000014876.html>

### 大山崎町歴史資料館：京都

「第17回平和のいしずえ展」が2015年8月4日～23日の会期により研修室で開催されました。戦前、戦中の資料から、アジア/太平洋戦争当時の人々の生活を振り返り、当時の歴史から平和の尊さを考えるものでした。

Tel : 075-952-6288 Fax : 075-952-6289

[http://www.town.oyamazaki.kyoto.jp/contents\\_detail.php?frmId=6992](http://www.town.oyamazaki.kyoto.jp/contents_detail.php?frmId=6992)

### 亀岡市文化資料館：京都

市制60周年記念 開館30周年記念 文化資料館第59回企画展「戦後70年、あのときの亀岡—戦争平和展2015」が2015年7月25日～8月30日の会期で開催されました。日本が外国と戦争をしていたあの時、亀岡も戦争をしていた事実を知るために、戦争へと突き進んでいった当時の様相に触れ、出征した兵士の足跡を追い、銃後を支えた人びとの暮らしを展示していました。残された戦争資料や書類、遺品を展示するにあたって、体験者の聞き取りや戦後にまとめられた記録集なども参考にして、遠い昔になりつつある戦時中の亀岡を再現することに努めていました。二度とあのような悲惨な歴史をくり返さないために、過去の戦争から学び、平和な未来を描く一助になることを願って開かれたものです。展示目録を作成しています。

Tel : 0771-22-0599 Fax : 0771-25-6128

<https://www.city.kameoka.kyoto.jp/bunkashiryoku/kurashi/kyoiku/bunka/shiryokan/riyoannai.html>

### 京丹後市立丹後古代の里資料館：京都

夏季企画展「丹後の村から見た戦争—村人と兵隊」が2015年7月25日～11月3日の会期で開催されています。当時の村や住民と戦争との関わりはいかなるものであったのか、京丹後市内に残された様々な資料を元に展示を構成していました。地域という身近な視点から戦争と当時の生活を振り返るものです。また本展覧会は京都府立大学地域貢献型特別研究の制度を利用し、大学の協力を得て学生・院生による展示解説も行いました。展示の構成、主な展示品は次の通りです。

1 出征兵士の姿 軍服、千人針、戦傷奉公杖、軍隊手帳、戦地からの手紙など

2 村人の出征・帰還・戦死 赤紙受領書、村葬弔辞など

3 村のくらしと戦争 竹やり、誉の家表札、消火弾、翼賛紙芝居など

Tel : 0772-75-2431 Fax : 0772-75-2432

<http://www.city.kyotango.lg.jp/museum/kodainosato/>

### 京丹後市立 網野郷土資料館：京都

2015年度夏季企画展「丹後の村から見た戦争—村人と兵隊」が2015年7月25日～9月6日の会期で開催されました。当時の村や住民と戦争との関わりはいかなるものであったのか、京丹後市内に残された様々な資料を元に展示を構成していました。地域という身近な視点から戦争と当時の生活を振り返るものでした。主な展示品は軍服、たすき、千人針、ゲートル、鉄かぶとなどでした。

Tel : 0772-74-0044

<http://www.city.kyotango.lg.jp/museum/aminokyodoshiryokan/index.htm>

### 南丹市立文化博物館：京都

特別展「戦争と南丹市—子どもたちへ語

り継ぐ戦争展」が2015年7月18日～8月30日の会期で開催されました。「どうして戦争がはじまったのか」「戦争中はどのようなようすであったのか」「戦後はどのように復興していったのか」苦難の時代を乗り越えた当時の人々の暮らしを展示していました。図録を刊行しています。

Tel : 0771-68-0081 Fax :  
0771-63-2983  
<http://www.be.city.nantan.kyoto.jp/hakubutukan/>

#### 南丹市日吉町郷土資料館：京都

「戦争と南丹市 号外でふりかえる戦後70年」が2015年7月18日～8月30日の会期で開催されました。戦後70年間に発行された号外を中心に、戦後の日本の歩みを紹介していました。

Tel&Fax : 0771-72-1130  
<http://www.be.city.nantan.kyoto.jp/hiyoshi-shiryokan/>

#### 向日市文化資料館：京都

ラウンジ展示「くらしのなかの戦争'15」展が2015年7月18日～8月31日の会期によりラウンジで開催されました。文化資料館では、毎年夏に戦争に関する展示を行っています。今年も、市民から寄贈された資料を中心に展示していました。身近な地域の資料を通じて、平和についてあらためて考えるきっかけにするために開催しているものです。

Tel : 075-931-1182 Fax :  
075-931-1121  
<http://www.city.muko.kyoto.jp/shiryokan/event.html>

#### 大阪国際平和センター「ピースおおさか」：大阪市

2015年4月30日にリニューアルオープンしました。「大阪空襲」を中心に取り扱

うことになり、この展示は充実しましたが、加害展示はほとんどなくなりました。また、平和維持活動で自衛隊の活動を取り上げています。

リニューアル記念講演会が2015年5月31日に開かれ、工藤洋三さんの「戦後70年の今、〈大阪空襲〉を考える―米軍資料を手がかりに」などの講演がありました。

「収蔵品から見る大阪空襲と戦時下の暮らし」が2015年6月16日～10月30日の会期により1階特別展示室で開催されました。展示できていない収蔵品を通して、大阪空襲と戦時下の暮らしを伝えていました。

戦後70年 終戦の日 平和祈念事業「講演会と歌で検証する「戦争」と「平和」が2015年8月2日に開かれました。

「戦争犠牲者追悼式平和コンサート」が2015年8月15日に開かれました。

開館の日 平和祈念事業「『学童疎開』を知っていますか―戦後70年目に伝えたいこと」が2015年9月20日に開かれました。開館の日平和祈念事業では、映画上映、シンポジウムを通じて、戦争を知らない世代へ、学童疎開の体験、ひいては、戦争の悲惨さや平和の尊さをどのようにして伝えていくのかを考える機会としていました。

Tel : 06-6947-7208 Fax : 06-6943-6080  
<http://www.peace-osaka.or.jp/>

#### 堺市立平和と人権資料館「フェニックス・ミュージアム」：大阪

特別展「広島・長崎原爆展」が2015年8月26日～9月1日の会期により堺市教育文化センター（ソフィア・堺）ギャラリーラウンジで開催されました。

Tel : 072-270-8150 Fax :  
072-270-8159  
<http://www.city.sakai.lg.jp/shisei/jinken/jinken/heiwa-jinkenshiryokan/>

### 吹田市立平和祈念資料館：大阪

企画展「心で感じる「ヒロシマ」—8月6日の記憶」が2015年7月28日～8月16日の会期で開催されました。原爆の図第2部「火」の布製複製画、「原爆と峠三吉の詩」のパネルを展示していました。

Tel : 06-6873-7793 Fax :  
06-6873-7796  
[http://www.city.suita.osaka.jp/home/so-shiki/div-jinken/jinken/\\_56228.html](http://www.city.suita.osaka.jp/home/so-shiki/div-jinken/jinken/_56228.html)

### 大阪歴史博物館：大阪

「こどもと戦争」が2015年7月29日～9月7日の会期で開催されました。お宮参りなどに男児が着用した綿入れには、兵士の装備品や軍艦・戦闘機などの絵が描かれています。日中戦争のようすを伝えるこども向け雑誌には、彩色画で戦地の状況などが紹介されています。戦時下のこどもたちが幼少期から戦争を身近に感じながら成長していたことがわかる資料を展示していました。

「戦災焼失区域図」が2015年7月29日～9月28日の期間展示されました。

Tel:06-6946-5728 Fax:06-6946-2662  
<http://www.mus-his.city.osaka.jp/news/2015/tenjigae/150801.html>

### いずみの国歴史館：大阪

2015年度夏季特別展「戦後70年記念戦争と和泉」が2015年8月1日～9月27日の会期で開催されました。戦争は、出征した兵士の人生や戦場となったアジア太平洋地域はもちろんのこと、銃後である和泉で暮らす人々の生活にも多大な影響を与えました。そこで、本市が所蔵する資料のほか、市民から提供された戦争や軍隊に関する資料を展示し、地域社会や市民生活と軍隊・戦争とのかかわりを明らかにしていました。本特別展は、満州事変に始まる先の戦争の歴史を十分に学び、今後の地域社会

や日本、そして世界のあり方を考える機会となることを期して開かれました。図録と展示リストを作成しています。

関連して、歴史講座「地域から考える戦争と平和」および歴史館リレー講座「人類の歴史と戦争—和泉の地域から考える」が次のように開かれました。

歴史講座「地域から考える戦争と平和」  
第1回 2015年8月8日  
講師 島田 克彦(桃山学院大学准教授)  
「大学生と考えた「村と戦争」—桃大・島田ゼミの取り組み」

講師 大橋 康夫(桃山学院大学島田ゼミ・元中学校教員)  
「帰らなかった命—南横山軍人墓地から見える戦争」

第2回 2015年9月19日  
講師 林 耕二(大阪民衆史研究会会員)  
「もうひとつの大阪空襲—和泉市の空襲について」

歴史館リレー講座「人類の歴史と戦争—和泉の地域から考える」

第1回 2015年8月15日  
講師 森下 徹(和泉市教育委員会)「公文書にみる戦時下の生活」

第2回 2015年8月22日  
講師 白石 博則(貝塚南高等学校教諭)  
「中世和泉の戦と山城」

第3回 2015年8月29日  
講師 千葉 太朗(和泉市教育委員会)  
「古墳に刻まれた戦争の痕跡—和泉黄金塚古墳と信太狐塚古墳の塹壕」

Tel : 0725-53-0802  
<http://www.city.osaka-izumi.lg.jp/bizik-ankosan/rekishi/1438072146845.html>

### 泉大津市立織編館と桃山学院大学学院史料展示コーナー：大阪

第二次世界大戦終結70年・日露戦争終結110年企画展「戦争が残したものもたらしめたもの」が学院史料展示コーナーでは2015年6月24日～11月17日の会期で、

泉大津市立織編館では2015年7月16日～8月3日の会期でそれぞれ開催されました。戦争は地域にさまざまな影響を与えました。その痕跡は今日にも残されています。一方で戦争の記憶は長い歳月を経て薄れつつあります。戦争が地域にもたらしたことを知り、今日の平和を思いおこし、未来に過去の記憶を伝えるため、泉大津市と桃山学院大学は共催で企画しました。本企画を通じて、次代を担う若い世代や学生に地域が実際に経験した「戦争」を知ってもらい、過去の教訓をベースに明るい未来を創ってほしいと願って開かれたものです。講演会も開かれました。

Tel : 0725-33-1131 Fax:0725-33-0670  
<http://www.city.izumiotsu.lg.jp/kakuka/kyoikuiinkai/oriamukan/1434700932448.html>

#### 箕面市立郷土資料館：大阪

「戦時生活資料展」が2015年7月31日～9月13日の会期で開催されました。平和を願う気持ちはあらゆる世代が共有するものであります。館では、その気持ちを後世に伝えていくために、1989年の開館以来、毎年この時期に「戦時生活資料展」を開催してきました。戦後70年の本年も、平和の尊さに思いをはせるとともに、戦争の記憶を風化させないために、「戦時生活資料展」を開催しました。展示資料の多くは、市民から寄贈されたものであり、戦時中に実際に使われていたものです。また、本年は中央図書館の協力を得て、当時の子どもたちが見たであろう紙芝居も展示していました。

Tel : 072-723-2235 Fax :  
072-724-9694  
<http://www.city.minoh.lg.jp/kyoudo/kikakutenji.html>

#### 姫路市平和資料館：兵庫

「収藏品展」が2015年1月10日～3月

29日の会期により2階展示室で開催されました。市内外の方々から寄贈を受けた現物資料を展示していました。

関連して2015年2月8日に姫路空襲体験談を聞く会が玉置正光さんを講師に開かれました。

春季企画展「姫路城の戦前・戦中・戦後」が2015年4月11日～7月5日の会期により2階展示室で開催されました。「太平洋戦争末期の日本本土空襲で全土が焦土と化した中であって、姫路大空襲の際にも市街地は焼け野原になりましたが、姫路城は奇跡的に消失を免れました。「軍都姫路」と呼ばれた明治期から「昭和の大修理」と呼ばれた戦後復興期までの姫路城の存亡の危機と保存修理を中心に、戦前の比較的平和な時期を謳歌した文芸運動や学園生活を交えて紹介していました。

関連して姫路空襲体験談を聞く会が、2015年6月21日は田路信一さんを講師に、7月4日は黒田大さんを講師に、それぞれ開かれました。

「非核平和展」が2015年7月11日～8月30日の会期により2階展示室で開催されました。

関連して被爆体験談を聞く会が2015年8月15日に中本宣子さんを講師に開かれました。

Tel : 079-291-2525 Fax :  
079-291-2526  
<http://www.city.himeji.lg.jp/heiwasiryo/>

#### 明石市立文化博物館：兵庫

企画展「くらしのうつりかわり展 戦時下のくらしと復興」が2015年2月15日～3月22日の会期により1階特別展示室、ロビーで開催されました。館で毎年開催している「くらしのうつりかわり展」。戦後70年目の開催となる今回は、「戦時下のくらしと復興」をテーマに取り上げていました。昭和時代のはじめ、日本は戦争をしていま

した。戦争が長引くにつれあらゆるものが不足し、生活を圧迫していきます。なかでも食糧不足は深刻でした。米の不足を補うために「いもがゆ」「すいとん」などの代用食が考え出され、さらに雑草や虫まで食べることもありました。また「供出」といって、鉄や銅などの金属は軍事用の物資として提出を課せられたので、陶器の羽釜や貝殻の杓子など、金属を使わない代用品が作られました。本展では、昭和初期から40年代の生活道具を中心に、当時のくらしをふりかえっていました。人々の生活が戦争でどのように変わっていったのか、戦後の困窮から日本がどのようにして復興していったのかを、道具をとおして感じてもらうために開かれたものでした。

Tel : 078-918-5400

<http://www.akashibunpaku.com/>

#### 尼崎市立文化財収蔵庫：兵庫

文化財収蔵庫第7回企画展「兵隊に行く・銃後を守る」が2015年7月18日～8月30日の会期により企画展示室で開催されました。戦争に行く男性と銃後を守る女性という視点からの展示でした。図録を作成しています。

Tel : 06-6489-9801 Fax :  
06-6489-9801

[http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/bunkazai\\_0/](http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/bunkazai_0/)

#### 小野市立好古館：兵庫

企画展「太平洋戦争と戦時下のくらし」が2015年7月11日～9月27日の会期により2階展示室で開催されました。小野市や周辺地域に残された資料から戦争中の市民生活を中心に紹介し、当時の社会や生活を考えていくものでした。鑑賞の手引きを作成しています。

Tel : 0794-63-3390

<http://www.city.ono.hyogo.jp/~kokokan>

</koukokan/list.html#plan>

#### たつの市立龍野歴史文化資料館：兵庫

企画展「戦後70年 あの日の子どもたち」が2015年8月1日～9月6日の会期で開催されました。戦争の惨禍を伝え平和について考える機会の一助となるべく、戦時下での子どもたちにスポットを当てた企画展を開催していました。展示リスト付き解説資料を作成していました。

Tel : 0791-63-0907 Fax :  
0791-63-0998

<http://www.city.tatsuno.lg.jp/rekibun/flyout.html>

#### たつの市立埋蔵文化財センター：兵庫

特別展示「大戦の記憶—写真ニュースにみるアジア太平洋戦争」が2015年7月18日～9月23日の会期で開催されました。「同盟写真ニュース」「同盟写真特報」、戦争遺品、播磨の戦争遺跡（パネル）などを展示していました。図録と展示資料リストを作成しています。写真撮影

関連して講座が次のように開かれました。

2015年7月25日「播磨における戦史」上谷 昭夫（いなみ野学園準講師）

2015年8月30日「戦争と国民のくらし」河島 真（神戸大学大学院准教授）

Tel : 0791-75-5450 Fax :  
0791-75-0353

<http://www.city.tatsuno.lg.jp/bunkazai/maibuncenter/centertop.html>

#### 福崎町立神崎郡歴史民俗資料館：兵庫

特別展「戦後70年 福崎と戦争の記憶」が2015年7月25日～11月23日の会期で開催されています。戦後70年の節目にあたり、戦争関連の収蔵資料を集めた特別展を開催し、戦争の惨禍や当時のくらしを伝える資料を展示しています。図録を作成しています。

Tel&Fax : 0790-22-5699

<http://www.town.fukusaki.hyogo.jp/html/rekimin/index.html>

### 柿衛文庫：兵庫・伊丹市

「戦後 70 年 戦地からの絵手紙 絵と句に込められた妻への想い」が 2015 年 7 月 11 日～8 月 30 日の会期で開催されました。日本画家の前田美千雄が戦地や国内の部隊から妻に送った絵手紙（絵入りの葉書）のなかから、絵に句を添えたものを中心に展示していました。

Tel : 072-782-0244 Fax :  
072-781-9090

<http://www.kakimori.jp/>

### 宝塚市立手塚治虫記念館：兵庫

戦後 70 年に考える第 64 回企画展「アドルフに告ぐーぼくは戦争の語り部になりたい」展が 2015 年 3 月 1 日～6 月 29 日の会期により 2 階企画展示室で開催されました。

「アドルフに告ぐ」の連載は、1983 年から始まりました。当時手塚は 55 歳。インタビューの中で「僕にとっては（戦争は）歴史じゃなく現実だった。戦争の語り部が年々減っていくので僕なりに漫画で伝えて、ケリをつけたかったんですよ。」とも語っています。これまでも戦争に関するマンガを幾つか描いてきた手塚ですが、編集長から今回は「徹底的にシリアスな大河ドラマを」という求めに応じて、戦争を善悪ではなく体験者にしか描けない形而上的なものと捉えて描き始めました。自らが語り部として戦争体験を描く—そこにかけた思いは相当強かったはず。宝塚で多感な時期を過ごした手塚ですが、戦争も宝塚で体験しました。自ら死の恐怖を目の当たりにした体験は、その後の作品世界の礎となりました。今年が終戦から 70 年になります。今回の企画展は、終戦を迎えた 8 月 15 日が自らのマンガの原点だと語る手塚治虫の作品「アド

ルフに告ぐ」を通して、何を伝えたかったのかを探っていました。また、戦争を描いた作品も幾つか紹介していました。これらの作品から“語り部”として伝えたかった手塚の思いを受け取ってもらう趣旨で開かれました。勤労働員に駆り出されていた旧制中学生の手塚さんは、大阪大空襲で死と隣り合わせの恐怖を味わっていました。8 月 15 日の夜、灯火管制の解かれた阪急百貨店のシャンデリアを見て「生きててよかった」と心の底から喜びを感じたという。会場には「アドルフ」のほか、自身の体験を基にした自伝的作品「紙の砦」「すきっ腹のブルース」、チョウに夢中の少年と脱走兵の交流を詩情豊かに描く「ゼフィルス」などの原画約 190 点を展示していました。

Tel : 0797-81-2970 Fax : 0797-81-3660  
<http://www.city.takarazuka.hyogo.jp/tezuka/>

### 奈良県立図書情報館：奈良市

戦争体験文庫企画展示「極限の日々から須藤ヨシエさんの「サイパン島戦争体験記」を読む 4」が 2015 年 1 月 6 日～3 月 29 日の会期で開催されました。「サイパン島戦争体験記」紹介の最終回でした。日本軍が壊滅し、ほぼアメリカ軍の手に落ちたサイパン島。須藤さんたちは、避難壕で息をひそめ、けして来ることのない日本からの援軍を待ち続けます。しかし、その生活は日に日に苦しいものになっていきました。解説資料を作成しています。

戦争体験文庫企画展示「あの日から 70 年—追想の 8.15」が 2015 年 4 月 1 日～9 月 27 日の会期で開催されました。8 月 15 日を取り上げた亀井勝一郎・津田左右吉・小松左京・宮脇俊三の作品を紹介するとともに、この日を振り返った資料も展示していました。解説資料を作成しています。

Tel : 0742-34-2111 Fax :  
0742-34-2777

[http://www.library.pref.nara.jp/collecton\\_sentai/exhibition](http://www.library.pref.nara.jp/collecton_sentai/exhibition)

#### 奈良県立民俗博物館：大和郡山市

「戦時下の暮らし」が2015年8月1日～9月6日の会期で開催されました。

Tel: 0743-53-3171 Fax: 0743-53-3173  
<http://www.pref.nara.jp/1508.htm>

#### 和歌山市立博物館：和歌山

コーナー展示「戦時下の人々／中筋家のくらしと美」が2015年6月2日～8月2日の会期で開催されました。

Tel: 073-423-0003  
<http://www.wakayama-city-museum.jp/>

#### 鳥取市歴史博物館(やまびこ館)：鳥取

2015年度特別展「70年目の夏 昭和の戦争と鳥取 戦艦武蔵・風船爆弾・歩兵第四十連隊・特攻」が2015年7月18日～8月30日の会期で開催されました。昭和の戦争は、経験した事象が個人により大きく異なり、戦線・事象すべてを紹介することはできません。また、戦時中における鳥取の様子をはじめとして、鳥取と戦争との関わりについては、戦後70年経とうとする現在でも、不明な点が多々あります。本展では、同館へ寄贈された資料をはじめ全国に遺された歴史資料を通じて、昭和の戦争と鳥取について紹介していました。改めて平和の尊さを考える機会となるように開かれたものです。

Tel.0857-23-2140 Fax.0857-23-2149  
<http://www.tbz.or.jp/yamabikokan/special/>

#### 米子市立山陰歴史館：鳥取

企画展「戦後70年 戦争の記憶—次世代に語り継ぐ」が2015年7月18日～8月30日の会期で開催されました。1941年に太平洋戦争に突入すると、戦地に出征していっ

た軍人だけでなく、国内に残った女性や子どもたちなどの銃後の人々もすべて戦争に巻き込まれました。終戦間際の1945年7月末には、米子市内でも空襲があり、強制疎開も実施されました。戦後70年となった現在もお世界の各地では、宗教や民族の対立などで悲惨な戦争が繰り返されています。今回の企画展では、館所蔵資料を中心に、戦時下の資料に残されている人々の暮らしの記録を次世代に伝えることを目的に開催していました。国民が戦時中に使った様々な生活用品や当時の貴重な写真などを展示し、改めて戦争の悲惨や残酷さ、命の尊さ、平和の大切さについて考える機会とするものでした。

Tel: 0859-22-7161 Fax: 0859-22-7160  
<http://yonagobunka.net/p/yonagobunka/rekishi/plan>

#### 日南町美術館：鳥取

戦後70年企画展「戦争の証言者たち 従軍画家小早川秋聲と従軍カメラマン小柳次一がみた戦争」が2015年7月10日～8月30日の会期で開催されました。

Tel: 0859-77-1113 Fax: 0859-77-1115  
<http://culture.town.nichinan.tottori.jp/bijyutukan/clendar.htm>

#### 益田市立歴史民俗資料館：島根

戦後70年記念企画展「戦時下の暮らし展」が2015年8月1日～9月27日の会期で開催されました。今年は1945年に第2次世界大戦が終わって70年を迎えます。そこで企画展「戦時下の暮らし展」が開催されました。大草町にあるギャラリーひれふりには歴史民俗資料館の資料と合わせて共催で戦争関連の資料が多く展示されていました。

Tel: 0856-23-2635  
<http://masudashi.sub.jp/app/webroot/index.php/news/archives/260>

## 岡山シティミュージアム：岡山

「第38回 岡山戦災の記録と写真展 一つないでいく記録と記憶」が2015年6月12日～7月5日の会期により4階展示室で開催されました。岡山空襲が行われた1945年6月29日から70年が経過し、1978年に始まった「岡山戦災の記録と写真展」も今年で38回目となりました。岡山市は、かつて空襲により一面の焦土と化してしまいましたが、その戦災遺跡は年を追うごとに少なくなっています。今の平和な暮らしは、岡山の復興を望む多くの人々の努力によって得られたものです。現在の私たちに与えられた使命は、過去の「戦争の悲惨さ」を後世へ伝え、「平和の尊さ」を未来へつないでいくことです。70年の時が、戦災の記憶さえも急速に過去の歴史へと変えつつある中で岡山空襲当時の様子やその困難に市民がどのように立ち向かい、復興を遂げていったのか、その貴重な記録を当時の記憶とともに展示していました。

関連して記念講演会「日本本土空襲の中の岡山空襲」が工藤洋三さんを講師に、2015年6月13日に4階講義室で開かれました。

Tel: 086-898-3000 Fax: 086-898-3003  
[http://www.city.okayama.jp/okayama-city-museum/tenji/tenji\\_201506-07\\_sensai.html](http://www.city.okayama.jp/okayama-city-museum/tenji/tenji_201506-07_sensai.html)

## 備前市歴史民俗資料館：岡山

季節展「戦時と日常」が2015年7月31日～8月30日の会期により企画展示室で開催されました。館ではこれまでも、戦争資料の展示・収集に努めてきましたが、2014年度には「備前焼製手榴弾体片」の寄贈がありました。今回は新寄贈資料とあわせて館の収蔵資料から、戦時が「日常」であった時代を振り返る展示を行っていました。出征の御祝旗、日の丸の寄せ書き、千人針、衣料切符、備前焼製手榴弾体、備前焼製罫子、備前焼製罫子関係資料群、備前焼製手

榴弾納品箱などを展示していました。

Tel&Fax: 0869-64-4428

<http://bizen-rekishu.sakura.ne.jp/event/2015/08/05/1449>

## 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館：広島

企画展「原爆の子 広島の子 少年少女のうたったえ」が2015年1月1日～12月28日の会期により地下1階の情報展示コーナーで開催されています。被爆から6年、広島の街が復興へと歩む中、子どもたちが書いた被爆体験記集「原爆の子 広島の子 少年少女のうたったえ」が出版されました。今回の企画展では、被爆時小学校4年生以上の子どもたちが執筆した被爆体験記38編を紹介し、子どもたちが体験した戦争や原爆の悲惨さ、平和への思いを伝えています。関連資料として、現物資料4点、複製資料5点、「市民が描いた原爆の絵」複製3点、写真4点も展示しています。

Tel: 082-543-6271 Fax: 082-543-6273

<http://www.hiro-tsuitokinenkan.go.jp/>

## 広島城：広島

被爆70周年記念展示「広島城と陸軍」が2015年7月18日～9月6日の会期により第4層企画展示室で開催されています。明治以降の広島城と陸軍の関係を示す陸軍資料や当時の写真などから、近代の広島城の歴史を紹介していました。また、矢賀警防分団の記録や関係者の証言などから、中国軍管区司令部防空作戦室を中心に1945年8月6日に広島城内で起きた出来事も展示していました。図録を作成しています。

Tel: 082-221-7512 Fax: 082-221-7519

<http://www.rijo-castle.jp/rijo/main.html>

## 広島県立美術館：広島市

広島・長崎被爆70周年「戦争と平和展」が2015年7月25日～9月13日の会期により2階展示室で開催されました。被爆70周年を迎える2015年、広島・長崎の両県立美術館が協働し、両館のコレクションと国内の美術館・大学などの所蔵品約200点を展示して、戦争の惨禍とその対極にある恒久平和への希求を照らし出す展覧会を開催しました。戦争を大規模化・総力戦化し、近代戦争へと変容させた19世紀のナポレオン戦争を始まりとして、20世紀の2つの世界大戦を取り上げ、美術は戦争をどのように描いたのか、芸術家たちはいかなる立場から創造し、変容していったのか、そして、広島と長崎の悲劇と祈りはどのように表象され続けてきたか、その歩みを紹介していました。図録と出品目録を作成しています。

Tel : 082-221-6246 Fax :  
082-223-1444

<http://www.hpam.jp/special/index.php?mode=schedule>

## 泉美術館：広島・広島市

被爆70年記念写真展「復興の記憶 ヒロシマを見つめた写真家たち」が2015年7月16日～9月6日の会期で開催されました。「後世に伝えること」に使命感を燃やし、激動の戦後を撮り続けた菊地俊吉・木村伊兵衛・土門拳・林重男・山端庸介らの写真家たち。1960年代高度成長期前半までの作品約80点を展覧し、被爆後の惨状から立ち上がり、明るく前向きに生きた人々のたくましさ、力強さを伝えていました。

関連して記念講演会が日本写真家協会副会長の松本徳彦さんを講師に2015年7月18日に特設会場で開かれました。

Tel : 082-276-2600 Fax:082-276-2612  
<http://www.izumi-museum.jp/exhibition.html>

## ふくやま文学館：広島

「被爆70年—文学に描かれた8月6日」が2015年8月1日～10月12日の会期で開催されました。8月6日の広島市原爆投下という未曾有の悲惨と破壊が、小説、詩歌、手記などに、どのように描かれているかを通して、改めて、戦争の悲惨、原爆の非人道性について考えていくことは、原爆投下の事実が遠い記憶となりつつある今日、きわめて重要なことです。本展では、原爆文学を中心に、8月6日がどのように描かれ、どのように継承されているかを展覧していました。

Tel : 084-932-7010 Fax :  
084-932-7020

<http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/bungakukan/>

## 太翔館(下関市立豊北歴史民俗資料)：山口

「原爆と戦争展」が2015年7月11日～8月30日の会期で開催されました。

Tel : 083-782-1651  
<http://h-rekimin.jp/>

## 山口県立山口図書館：山口市

ふるさと山口文学ギャラリー企画展「ふるさと文学者たちの終戦—「戦争」と「平和」のはざままで」が2015年5月1日～8月27日の会期で開催されました。戦後70年にちなみ、ふるさと文学者たちが残した作品のうち、作者の戦争体験と関わりの深いことばと作品を紹介していました。河上徹太郎『わがデカダンス』、林芙美子『北岸部隊』、氏原大作『幼き者の旗』、宮本顕治『百合子追想』、磯永秀雄『海がわたしをつつむ時 磯永秀雄詩集』などを展示していました。

Tel : 083-924-2111  
<https://library.pref.yamaguchi.lg.jp/>

### 徳島県立博物館：徳島市

部門展示「戦争の時代と徳島」が2015年6月23日～8月30日の会期で開催されました。戦争が繰り返し行われ、日本が勢力を拡大させた近代日本。戦闘員として出兵する兵士だけでなく、家族も合わせ総力戦として行われてきた戦争。多くの命が失われた戦争を収蔵する資料で紹介し、戦争の悲惨さをあらためて考える機会にするものでした。

Tel : 088-668-3636 Fax :  
088-668-7197

<http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/fukyu/moyooshi.htm>

### 徳島市立德島城博物館：徳島

飯原一夫絵画展「追憶の昭和徳島—戦争の惨禍と戦後復興」が2015年6月20日～8月16日の会期で開催されました。徳島において、その独自の画風で評価の高い画家・飯原一夫さんの協力を得て開催する恒例の絵画展でした。徳島の人々から広く親しまれている膨大な作品世界から、「戦後70年」の節目を迎える今年の展覧会では、戦争へと向かう時代の風景〔戦前〕、未曾有の戦禍と敗戦〔戦中〕、そして復興への歩み〔戦後〕を描いた作品を、三部構成で展示していました。最新作である《徳島大空襲》《焼け跡》《1945年8月15日》をはじめ、およそ70点の作品で構成していました。いずれの作品も徳島という街の風景と、そこに生きた人々のくらしの移り変わりを詩情豊かに描き出しており、絵画を通して徳島の戦争と平和の歩みを振り返るものとなっていました。

Tel : 088-656-2525 Fax :  
088-656-2466

<http://www.city.tokushima.tokushima.jp/johaku/kikaku/>

### 徳島県立文書館：徳島市

特別企画展「終戦70周年記念 民衆が見た戦争」が2015年8月5日～10月25日の会期で開催されました。戦争の時代であった昭和前期。徳島の民衆が時代とどのように向き合っていたのかを、残された歴史資料を通して考えるものでした。

Tel : 088-668-3700 Fax :  
088-668-7199  
[http://www.archiv.tokushima-ec.ed.jp/new\\_article/00000000229.html](http://www.archiv.tokushima-ec.ed.jp/new_article/00000000229.html)

### 徳島県立文学書道館：徳島市

特別展「戦後70年 文学に描かれた戦争—徳島ゆかりの作品を中心に」が2015年8月7日～9月23日の会期により1階特別展示室と3階収蔵展示室で開催されました。あの戦争がいかに多くの人たちの命を奪い、人生を強引に変えていったのかを知るとは今の平和な日本に暮らす私たちにとっても大切なことです。この特別展では徳島ゆかりの小説家や歌人の作品を通じて、空襲や戦場での悲惨な体験を紹介していました。瀬戸内寂聴、海野十三、富士正晴といった徳島にゆかりのある文学者・21人が、「徳島大空襲」「特攻隊」「疎開」などの戦争体験について書いた著書や直筆の原稿を展示するとともに、その中の一節を書いたパネルや写真、関連資料なども紹介していました。戦争体験の風化が懸念される今、戦争の悲惨さを伝え、戦争を二度と繰り返してはならないことを若い世代に伝えたいという思いが伝わってくる展示会でした。

Tel : 088-625-7485 Fax :  
088-625-7540  
<http://bungakushodo-exb.blogspot.jp/2015/07/70.html>

### 香川県立ミュージアム：高松市

「語り継ぐ戦争の記憶」が2015年7月25日～9月13日の会期により常設展示室1

で開催されました。館がこれまで収集してきた戦時下の資料を通して、当時のあらゆる人々の生活が、戦争によって大きく変わっていったことを紹介し、戦争の悲惨さや平和の大切さについて考える展示会でした。県内の人たちから寄贈を受けた海軍航空隊の飛行服、千人針、焼夷弾、兵士が海外の戦地から家族へ送った手紙、大学在学者で徴兵猶予停止になりもらった「仮卒業証書」、救護看護婦として戦地に赴いた女性の腕章・胸章・救護員手牒、灯火管制のポスター、少女向け雑誌の付録の「皇軍万歳双六」なども展示されました。

Tel:087-822-0247 Fax : 087-822-0049

<http://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/tenji/schedule/schedule.html>

### 多度津町立資料館：香川

夏の企画展「戦争資料展」が2015年8月1日～30日の会期で開催されました。

Tel : 0877-33-3343

<http://tkamada.web.fc2.com/shiryokan/kikaku/2015/20150801senso/2015senso.htm>

### 三豊市文書館：香川

[夏期企画展]「戦後70年〈終戦から復興へ〉」が文書館会場では2015年7月11日～8月30日の会期で、マリノウェーブ会場では2015年9月10日～23日の会期で、それぞれ開催されました。戦中・戦後の三豊地域にスポットを当てて、戦時下の日常風景、また戦後のインフラ整備などにより、地域やそこで暮らす人々の生活がどう変わったか、写真や資料で振り返りっていました。詫間航空隊建設前の香田地区の風景(写真)、仁尾国防婦人会の射撃訓練(写真)、戦中、戦後に関する公文書などの資料などが展示されました。

Tel: 0875-63-1010 Fax:  
0875-63-1006

[http://www.city.mitoyo.lg.jp/forms/info/info.aspx?info\\_id=9177](http://www.city.mitoyo.lg.jp/forms/info/info.aspx?info_id=9177)

### 福岡市立博物館：福岡

「戦争とわたしたちの暮らし24」が2015年6月16日～8月16日の会期により企画展示室1、4で開催されました。福岡市博物館では、1991年から6月19日前後に企画展示「戦争とわたしたちの暮らし」を開催し、戦時期におけるひとびとの暮らしのあり方を、さまざまな観点から紹介してきました。24回目となる今回は、「戦時の暮らしを振り返る」をキー・ワードとして、近年博物館に寄贈された戦時資料を展示します。『写真週報』や「読売ニュース焼付版」に掲載された写真を中心に、当時の世相を振り返ることからスタートし、「銃後」の役割や、出征兵士と家族の手紙の遣り取り、婦人会における女性の活動を紹介していました。そして、福岡大空襲での被害にふれ、終戦後にまで継続していた「戦時」の事例を紹介していました。戦後70年の節目に、戦争の時代を改めて振り返ることで、今日の平和について考える機会とするために開かれたものです。

Tel: 092-845-5011 Fax : 092-845-5019

<http://museum.city.fukuoka.jp/about/pdf/schedule2015>

### 飯塚市歴史資料館：福岡

「戦争と昭和の暮らし展」と「飯塚の紙芝居展」が2015年7月31日～8月25日の会期で開催されました。

Tel& Fax : 0948-25-2930

<http://www.city.iizuka.lg.jp/rekishii/index.htm>

### 大牟田市立三池カルタ・歴史資料館：福岡

「平和展2015 戦争の記録—大牟田空襲から70年」が2015年6月9日～8月30

日の会期で開催されました。大牟田市では、1944年から1945年の6月～8月にかけておこなわれた計5回の米軍による大規模な空襲で、1300人を超す尊い命が失われました。また、この空襲で市街地のほとんどは焼けてしまい、5万5000人以上の人が家をなくすなどの大変大きな被害を受けました。今回の平和展では、主に大牟田空襲に関する資料や写真の展示を通じて、空襲の実態や被害状況を紹介することにより、戦争と平和について改めて考えてもらう機会を提供していました。

Tel&Fax : 0944-53-8780  
<http://karuta-rekish.com/>

#### 久留米市六ツ門図書館：福岡

戦後70年平和資料展「少年が見た久留米の戦争」が2015年7月4日～9月6日の会期により展示コーナーで開催されました。戦争の悲惨な実態を知り、平和の尊さと命の大切さを次世代へと伝えるわたしたちの取り組みが急がれます。本展では、久留米市に住む一人の中学生（旧制）が太平洋戦争中に記した「軍国少年日記」をもとに、多感な少年の目を通じて、街の様子や人々の暮らしぶり、終戦間際の久留米空襲について紹介していました。ものごころついた頃から軍国教育を受け、筋金入りの軍国少年に成長した彼は、戦争末期から終戦を通してどう変わっていったのでしょうか。展示は、実物資料や写真、解説図、映像資料などを用い、戦争体験のない世代にも幅広く共感と関心をもって見られるものになっていました。

関連して荒木・久留米空襲70周年シンポジウムが2015年8月8日に久留米市役所2階くろみホールで工藤洋三さんが基調講演をし、新名悠由さん、坂田健一さんらが参加して開かれました。

Tel : 0942-39-5620 Fax :  
0942-27-7281

<http://www.kurume-hotomeki.jp/jp/topics/?mode=detail&id=346>

#### 筑紫野市歴史博物館：福岡

企画展「戦後70年 ふるさとの戦時資料展」が2015年7月11日～9月6日の会期で開催されました。二日市尋常高等小学校の卒業生で福岡連隊に入隊したある兵士に焦点をあて、戦場から両親へ宛てた手紙を中心に、その生涯を振り返っていました。

Tel : 092-922-1911

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/event-info/event-1506-96-c.html>

#### 福岡県立図書館：福岡市

郷土資料室ミニ展示コーナー「福岡大空襲と県立図書館」が2015年5月1日～6月28日の会期で開催されました。福岡大空襲の貴重な資料と県立図書館設立から空襲時までの歴史を紹介していました。

郷土資料室ミニ展示「福岡の終戦」が2015年7月1日～8月30日の会期で開催されました。70年目の終戦日を迎えるに当たり、福岡の終戦の様子が分かる資料を紹介していました。

2015年度映画資料展示第1回「映画に見る太平洋戦争」が2015年6月2日～21日の会期により企画展示室（本館1階エントランスホール内）で開催されました。

Tel : 092-641-1123 Fax : 092-641-1127  
<http://www.lib.pref.fukuoka.jp/hp/kyoudo/page/index.html>

#### 福岡共同公文書館：筑紫野市

2015年度第1回企画展「百道松風園－終戦と子どもたち」が2015年7月22日～9月27日の会期で開催されました。戦争が人々の生活に及ぼす影響や平和の尊さについて改めて考えてもらうために、戦災孤児の収容保護施設として発足した「百道松風園」について、館が所蔵する公文書や写真

資料などを紹介していました。

関連して講演会「終戦と子どもたち—聖福寮と松風園」が2015年7月25日に開かれ、下関短期大学の 高杉志緒准教授が講演しました。

Tel : 092 - 919 - 6166

<http://kobunsyokan.pref.fukuoka.lg.jp/>

### 北九州市立松本清張記念館：福岡

戦後70年特別企画展「清張と戦争—読み継がれる体験と記憶」が2015年8月1日～12月23日の会期により2階「ホール」で開催されています。松本清張は1943年10月、33歳で教育召集となり、三か月後に一旦解除となりますが、1944年6月に再度召集され、衛生兵として従軍し、1945年8月15日、朝鮮半島で敗戦を迎えました。軍隊の中の人間関係、上下関係、そして強固な官僚機構を確かな視線で捉えたことが、後の作品世界にはかり知れないほどの理解をもたらすこととなりました。本企画展では、自伝的作品である「半生の記」を中心に、清張の戦争体験、戦時下での様々な出来事、それらを色濃く写した作品世界を、今に残る史料とともに紹介しています。図録を作成しています。展示構成はつぎのとおりです。

#### 1 作品が語る戦争

自筆原稿や蔵書などで作品世界を紹介します。

I 出征—朱あかい蔵書印の記憶。

出征前日、死を想定して行ったのは、蔵書に印を捺すことだった。

(紹介作品)「回想的自叙伝(のち「半生の記」)」

II 逃亡—赤い煉瓦塀の誘惑。

兵営を取り囲む赤煉瓦の低い塀を見るたび、逃亡したい誘惑に駆られた。

(紹介作品)「厭戦」「回想的自叙伝(のち「半生の記」)」

III 召集—赤紙が来た。

入隊検査で言われた謎の言葉—「ハンドウを回されたな」。なぜ自分が召集されたのか。

(紹介作品)「遠い接近」「回想的自叙伝(のち「半生の記」)」

IV 設計—為政者の胸中、たぎる炎の赤。

伊藤博文の「大日本帝国憲法」と山県有朋の「軍人勅諭」。その制定にまつわる物語。

(紹介作品)「夏島」「象徴の設計」「史観宰相論」

V 犠牲—接待婦を強いる、赤い紙燃こより。

くじ引きで行われた女性の人選。モーパッサンの小説との〈近似性〉がそこに。

(紹介作品)「赤いくじ」「回想的自叙伝(のち「半生の記」)」「占領『鹿鳴館』の女たち」

#### 2 史料が語る戦争

清張の軍隊体験の年譜、軍隊で行った場所(韓国釜山、龍山、井邑)や、当時の状況(兵役の関係と年限、清張が徴兵検査を受検した1930年の体格等位別割合など)をパネル化し、併せて紹介しています。(主な展示品)清張が出征前叔父に宛てた手紙、北九州市民の寄贈による戦時資料(臨時召集令状、軍隊手帖、衛生兵小道具など)。

Tel : 093-582-2761 Fax : 093-562-2303

[http://www.kid.ne.jp/seicho/html/images/icon/title/titles\\_kikaku.gif](http://www.kid.ne.jp/seicho/html/images/icon/title/titles_kikaku.gif)

### 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館：長崎市

被爆70周年関連企画 第4回被爆体験記企画展「児童と原爆」が2015年1月1日～6月30日の会期により地下2階 遺影・手記閲覧室で開催されました。爆心地に近い国民学校の児童だった方々の体験記を、1995年度に厚生省(当時)が収集した被爆体験記集と、祈念館に寄贈された体験記の

中から選び展示していました。体験記をと  
おして、幼い児童らが体験した戦争や原爆  
の悲惨さに、思いをはせるものでした。

被爆 70 周年関連企画 企画展「原子雲の  
下に生きて」が 2015 年 7 月 4 日～12 月 20  
日の会期により地下 2 階 遺影・手記閲覧室  
で開催されています。当時の山里国民学校  
の児童による体験記を永井隆博士が編集し、  
被爆から 4 年後に発行された「原子雲の下  
に生きて—長崎の子供らの手記」に関する  
資料を展示し、子供たちが体験した戦争や  
原爆の悲惨さ、平和への思いを伝えるもの  
です。

Tel : 095-814-0055 Fax : 095-814-0056  
<http://www.peace-nagasaki.go.jp/>

#### 長崎市歴史民俗資料館：長崎

企画展「戦後 70 年を振り返る—戦時中の  
暮らし展」が 2015 年 6 月 18 日～8 月 23  
日の会期で開催されました。戦時体制下で  
人びとはさまざまな統制を強いられ、日常  
生活に必要な物も手に入りやすく代用品や  
代用食がさかんにつくられました。戦後 70  
年という大きな節目に、現在の豊かな生活  
と対比し、「戦争の悲惨さ」「平和の尊さ」  
を考える機会として開催した展示会でした。  
切手・軍事郵便葉書・手製の教科書・大東  
亜戦争世界要図・旭日旗寄せ書き・防空頭  
巾、もんぺ・精霊流し図など 約 150 点を  
展示していました。

Tel&Fax : 095-847-9245  
<http://www.city.nagasaki.lg.jp/kanko/82000/828000/p009251.html>

#### 長崎県美術館：長崎市

コレクション展 広島・長崎被爆 70 周年  
「戦争と平和展」が 2015 年 9 月 20 日～10  
月 25 日の会期で開催されました。長崎被爆  
70 周年を迎える 2015 年、広島・長崎の両  
県立美術館が協働し、両館のコレクション  
と国内の美術館・大学などの所蔵品を通じ

て、戦争の惨禍と、その対極にある恒久平  
和への希求を照らし出す展覧会で、長崎県  
美術館では約 100 点が展示されました。

Tel : 095-833-2110 Fax : 095-833-2115  
<http://www.nagasaki-museum.jp/permanent/archives/120>

#### 玉名市立歴史博物館：熊本

企画展「戦後 70 年 私たちはなぜ戦いを  
繰り返すのか」が 2015 年 7 月 25 日～10  
月 18 日の会期により企画展示室で開催さ  
れました。大日本帝国婦人会などで活動す  
る婦人たち、兵隊ごっこに興じる子どもた  
ち、軍事工場で汗を流す女学生、学徒動員  
で戦地に赴く男子学生など、戦時下の人々  
と私たちとは違うのでしょうか?世論の流  
れと、変わらない家族への想いを当時の日  
誌や手紙で追っていました。

Tel:0968-74-3989 Fax : 0968-74-3986  
[http://www.city.tamana.lg.jp/pub/8934\\_filelib\\_748bf727b45a81a911dbc2d4e5689360.jpg](http://www.city.tamana.lg.jp/pub/8934_filelib_748bf727b45a81a911dbc2d4e5689360.jpg)

#### 天草アーカイブズ：熊本

第 7 回天草アーカイブズ企画展「戦争と  
天草」が 2015 年 9 月 30 日～10 月 7 日の  
会期により市民センター・展示ホールで開  
催されました。「天草海軍航空隊」の写真、  
「戦後の暮らし」、「戦艦長良」などの資  
料約 100 点を展示していました。

Tel : 0969-25-5515  
[http://www.city.amakusa.kumamoto.jp/cal/pub/detail.asp?c\\_id=3&id=3332&type=top](http://www.city.amakusa.kumamoto.jp/cal/pub/detail.asp?c_id=3&id=3332&type=top)

#### 熊本大学五高記念館：熊本市

戦後 70 年特別企画展「五高と戦争—戦時  
体制下の五高生たち」が 2015 年 8 月 6 日  
～12 月 21 日の会期で開催されています。  
日本及び関係国に大きな惨禍を残した  
1931 年の満州事変から 15 年におよぶ戦争

は、旧制高等学校にも大きな影響をおよぼしました。それは長髪や街頭ストームの禁止、修業年限の短縮、学徒動員、徴兵猶予の撤廃による学徒出陣など、教育のみではなく生活全般におよびました。五高記念館は旧制第五高等学校の史料を受け継ぎ、研究・展示を続けてきました。また、戦時については五高卒業生にアンケート調査や聞き取り調査を行ってきました。これらの資料をもとに旧制第五高等学校における戦争を語る特別企画展です。展示品数は年表・写真・史料・解説パネルなど約 80 点です。

Tel : 096-342-2050

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/syakairenkei/chiikirenkei/news/20150806-1221>

### 大分県立歴史博物館：宇佐市

企画展「戦後 70 周年記念 戦争と文化」が 2015 年 7 月 24 日～9 月 23 日の会期により企画展示室で開催されました。文学者や芸術家はどのように戦争と向き合ったのか。さまざまな作品から見えてくる戦争の姿を当時の人々の暮らしとともに紹介し、生活や文化から戦争を見つめ直していました。戦争は、遠い戦場だけでおこなわれるわけではありません。戦争遂行への国家的な協力体制が敷かれると、物資の配給など生活面でさまざまな統制がはじまり、文学作品や芸術作品も戦意を高揚させるものが多くつくられました。本展では、自由な表現活動であるはずの文学や芸術、そして平穏な人々の暮らしが、戦争によりどのように変わったのかに注目し、軍事や政治とは違う視点から戦争を取り上げていました。具体的には、郷土出身の作家・野上弥生子や漫画家・麻生豊などの作品や原稿、日記などにより、文化人が戦争をどのように捉え描いたのかを紹介していました。また、戦時下の様子からうかがえる雑誌や新聞といったメディア、さらに当時の暮らしぶりを示す生活関連の資料なども展示していま

した。主要展示品は野上弥生子関連資料・麻生豊「買い出しの絵」・雑誌『主婦之友』・国防婦人会鞆・防空頭巾でした。図録と展示リストと解説シートを作成しています。

Tel : 0978-37-2100 Fax : 0978-37-2101

<http://kyouiku.oita-ed.jp/rekisihakubutukan-b/2015/03/27.html>

### 大分市歴史資料館：大分

テーマ展「おおいた戦時中の暮らしと戦後復興」が 2015 年 7 月 18 日～9 月 27 日の会期で開催されました。戦争が長期化すると、国は 1938 年全ての人的・物的資源を統制し運用することのできる法律「国家総動員法」を定め、戦場のみならず、「銃後」と呼ばれた国内での生活も戦争一色となりました。大分市もまた、例外ではありませんでした。本テーマ展では、子どもたちを取り巻く環境を通して、さまざまな統制下にあった戦時中の大分市で生きた人々の暮らしと家族によせる思い、今なお語り継がれる大分空襲について紹介していました。また、終戦を経て、急速な戦後復興を遂げ、大きく移り変わっていった昭和 30 年代までの大分市の様子を展示していました。資料館ニュースが解説資料となっていました。

Tel : 097-549-0880 Fax : 097-549-5766

<http://www.city.oita.oita.jp/www/contents/1432103774531/index.html>

### 宮崎県立図書館：宮崎市

特別展「戦後 70 年記念 戦争の証言」が 2015 年 7 月 7 日～8 月 16 日の会期により 2 階特別展示室で開催されました。戦争について今一度見つめ直し、平和の尊さを次世代に引き継ぐことの大切さについて考えることを目的として企画されました。展示構成は、・証言者の横顔...映像記録を基にした掲示資料、・物が語る戦争...証言者関連の資料、・太平洋戦争関連の証言映像...「宮崎この人」企画制作 DVD、・「宮崎こ

の人」企画の取組み紹介...取材記録・道具・機器・取材時スナップなどの展示でした。主な展示資料は軍服、ゲートル、パイロット帽、戦争関連の書籍でした。

Tel : 0985-29-2911

[http://www.discover-miyazaki.jp/event/item\\_5069.html](http://www.discover-miyazaki.jp/event/item_5069.html)

### 都城歴史資料館：宮崎

戦後 70 年 企画展「近代戦争と都城」が 2015 年 7 月 23 日～11 月 29 日の会期で開催されています。アジア・太平洋戦争では都城の人々もたくさん亡くなっています。戦争の時代、人々は戦争をどのようにとらえ、どのような思いで生きてきたのか。今回の企画展では、「戦争」と「平和」について考えるために、日清・日露戦争からアジア・太平洋戦争までの資料を用い、当時の人々の姿に迫るものです。展示構成は、  
・日清・日露戦争の時代・軍都都城の誕生・帝国日本の拡大・大陸へ渡った人々・陸軍特別大演習・ひろがる日本と中国の戦争(はてしない戦争に突入)・太平洋戦争(拡大する戦場)・出征した人々・戦争とくらし・戦時下の学校・都城の飛行場・特攻機の出撃  
・都城への空襲・終戦です。

Tel&Fax : 0986 - 25 - 8011

<http://cms.city.miyakonojo.miyazaki.jp/display.php?cont=150717162027>

### 始良市加治木郷土館：鹿児島

夏季企画展「写真が語る太平洋戦争と加治木」が 2015 年 7 月 25 日～8 月 30 日の会期で開催されました。加治木のまちが太平洋戦争の前後でどう変化したか、人びとの生活の様子がわかる当時の写真を展示していました。

Tel : 0995-62-0130 Fax : 0995-62-0130

<http://www.city.aira.lg.jp/bunkazai/gyosei/shisetsu/kyoiku/kyodo.html>

### 霧島市立隼人歴史民俗資料館：鹿児島

企画特別展「戦後 70 年 霧島市の戦争遺跡」が 2015 年 8 月 11 日～9 月 30 日の会期で開催されました。霧島市にある 2 つの特攻基地からも多くの人たちが旅立っていました。地下指令壕や戦車壕など、今でも、霧島市内には多くの戦争遺跡が残っています。これら戦争遺跡の造られた背景や当時の様子を紹介するとともに、これを機に、平和と今後の国際社会のあり方について考える特別展でした。

Tel : 0995-43-0179

<http://www.city-kirishima.jp/modules/page045/index.php?id=73>

### 川内歴史資料館：鹿児島

戦後 70 年企画展「語り継ぐ戦争の記憶」が 2015 年 7 月 28 日～10 月 4 日の会期により 2 階企画コーナー1・2 で開催されました。戦争の時代を振り返る機会とするために戦時中の人々の暮らしや置かれた状況などを、薩摩川内市を中心に紹介していました。トピック展示「戦後復興を写真で見る一ふるさと川内」も 1 階ロビーで開催していました。

Tel : 0996-20-2344 Fax : 0996-20-2848

<http://rekishi.satsumasendai.jp/archives/news/20150619/1028>

### 種子島開発総合センター「鉄砲館」：鹿児島

「戦後 70 年展ー失う前に 聞かしょーか」が 2015 年 8 月 1 日～31 日の会期で開催されました。今回の企画展は「見る」ではなく「伝える」に重点を置き、展示していました。節目の年に、多くの方に戦争について考えてもらいたいと思い開いたものです。1 戦争を体験した人たちの体験談 2 種子島の戦争跡地の紹介 市民の聞き取りの調査により今も残る戦時中の爪痕を紹介 (防空壕、石碑、砲台跡など) 3 市民よ

り提供された資料、鉄砲館収蔵の資料 当時の写真、戦地からの手紙、戦争をまとめた本などの展示がありました。

Tel: 0997-23-3215 Fax: 0997-23-3250  
<http://www.city.nishinoomote.lg.jp/center/tayori/2707.pdf>

### 沖縄県平和祈念資料館：糸満市

2014年度第5回子ども・プロセス企画展「沖縄戦の絵 - 体験者が描く地獄の戦場」が2015年3月2日～5月17日の会期で開催されました。沖縄戦を生きのびた方々が描いた悲惨な体験の絵を通して、70年前に沖縄で何が起こったのかを展示していました。

日系米国人版戦争体験収録事業成果報告展「日系二世が見た戦中・戦後一母国と祖国の間で」が2015年3月21日～6月30日の会期で開催されました。館では、「日系米国人版戦争体験収集事業」として、沖縄戦に従軍した日系米国人の証言や日米のどちらに忠誠を尽くすか悩み苦しんだ日系人の戦争体験を収録しました。その成果報告展でした。

2015年度第1回子どもプロセス企画展「沖縄戦と本土決戦ー捨て石にされた沖縄」が2015年5月28日～7月7日の会期で開催されました。

第25回児童・生徒の平和メッセージ展が2015年6月23日～7月8日の会期で開催されました。

新収蔵品展が2015年7月15日～9月17日の会期で開催されました。2013年度・2014年度の2年間で寄贈された資料を紹介していました。

第2回子どもプロセス企画展「チャレンジー夏休み自由研究」が2015年7月18日～8月23日の会期で開催されました。

「戦時中の手紙・手記からみる家族の絆」展が2015年8月1日～31日の会期で開催されました。館所蔵資料や今回の展示会の

ために特別に提供された資料を紹介していました。

「終戦70年 特別漫画展 沖縄」が2015年8月15日～9月28日の会期で一般財団法人日本漫画事務局八月十五日の会の主催により開催されました。

第3回こどもプロセス企画展「敗戦と収容所生活」が2015年9月7日～11月23日の会期で開催されています。沖縄戦から戦後にかけて、沖縄県民の大部分が強制的に「収容所」に入れられました。「収容所」の中の生活の様子とその後の状況について展示しています。

Tel: 098-997-3844 Fax: 098-997-3947  
<http://www.peace-museum.pref.okinawa.jp/>

### 沖縄県立博物館・美術館：那覇市

2015年度沖縄県立博物館・美術館企画展「報道カメラマン 大城弘明・山城博明 写真展」が2015年3月28日～4月19日の会期により企画ギャラリー1、2で開催されました。40年以上にわたり沖縄の現状を撮り続けてきた2人の報道カメラマンの写真展でした。大城弘明は沖縄タイムス社で、山城博明は琉球新報社で発信する以前から、それぞれ復帰闘争、戦争の爪痕、祭祀、習俗を撮影してきました。本展覧会では、沖縄戦の終戦から70年を経てもなお消えない痕跡と今なお続く不条理への憤りを、2人の写真でたどっていました。一方、人々のくらしのなかで受け継がれてきた習俗や祭祀から、根源となっているものを探っていました。沖縄の「今」をとらえる報道人としての目は、県民に寄り添いながら、厳しくそのありさまを伝えてきました。同時に、その眼差しは温かく、彼らが切り取ったくらしのなかの表情には、引き受けられない現実を生きてぬいてきた複雑な心情まで写しだしているように見えます。そんなふたつの視線をもつ2人の写真を紹介して

いました。

Tel : 098-941-8200 Fax : 98-941-2392  
<http://www.museums.pref.okinawa.jp/index.jsp>

#### 那覇市歴史博物館：沖縄

戦後 70 周年記念展「沖縄戦、そして米軍統治—那覇の街 復興・発展物語」が 2015 年 5 月 30 日～7 月 28 日の会期で開催されました。戦前の首里・那覇の様子、戦時体制下の沖縄、沖縄戦の状況、戦争終結跡の米軍による沖縄統治、統治下での那覇の復興・発展の様子を紹介していました。

Tel : 098-869-5266 Fax : 098-869-5267  
<http://www.rekishu-archive.city.naha.okinawa.jp/archives/89697>

#### うるま市立石川歴史民俗資料館：沖縄

合併 10 周年特別企画「平和資料展 戦後復興の地うるま市—その時人々は立ち上がった」が 2015 年 5 月 15 日～6 月 28 日の会期で開催されました。

Tel : 098-973-4400 Fax :  
098-973-4444  
<http://www.city.uruma.lg.jp/culture/139/1277/1282>

#### 宜野湾市立博物館：沖縄

戦後 70 年企画展(1)「沖縄戦から 70 年—戦場の宜野湾」が 2015 年 6 月 7 日～7 月 5 日の会期で開催されました。

戦後 70 年企画展(2)「宜野湾、戦後の復興と暮らし」が 2015 年 7 月 15 日～9 月 6 日の会期で開催されました。

Tel : 098-870-9317 Fax :  
098-870-9316  
<http://www.city.ginowan.okinawa.jp/organization/shiritsu-hakubutsukan/>

#### 名護博物館：沖縄

戦後 70 周年記念企画展「名護・やんばるの戦争展」が 2015 年 7 月 5 日までの会期で開催されました。

Tel : 0980-53-1342 Fax : 0980-53-1362  
<http://www.city.nago.okinawa.jp/4/3282.html>

#### 宮古島市総合博物館：沖縄

慰霊の日関連特別展示が 2015 年 5 月 29 日～6 月 30 日の会期で開催されました。

Tel : 0980-73-0567 Fax : 0980-73-0822  
<https://www.city.miyakojima.lg.jp/soshiki/kyouiku/syougai-gakusyu/hakubutsukan/>

#### 八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館：沖縄

「戦争資料展—70 年前のこと—住民が残した沖縄戦の証言と記録 1」が 2015 年 6 月 9 日～7 月 5 日の会期で開催されました。

Tel : 098-835-7500 Fax : 098-835-7501  
<http://www.town.yaese.okinawa.jp/rekuisiminzoku/>

#### 諸見民芸館：沖縄・那覇市

企画展「遺品が語る」が 2015 年 8 月 15 日までの会期で開催されました。戦争資料や遺品を通して戦争の悲惨さ、平和の尊さを学んでもらいたい」という趣旨で開かれました。沖縄戦や太平洋戦争当時に使用された機関銃や銃、手りゅう弾、軍刀、水筒など約 1000 点を展示していました。1941 年に海軍省が蔵版した大東亜共栄圏の大地図、日本兵の召集令状だった赤紙、沖縄戦時に米軍が投降を呼び掛けたビラなども展示していました。

Tel : 098-932-0028  
<http://www.museum-okinawa.jp/26mori/>

## 海外の平和博物館

2015年 6月2日(火)  
ウィーン平和博物館 (Peace Museum  
Vienna) 訪問記

きっかけは、昨年夏の新聞(毎日新聞)、文化欄でした。立命館大学、平和学の山根和代先生らがオーストリア女性、ベルタ・フォン・ズットナー(1843~1914)の自伝的小説の翻訳版を出版されたという記事でした。ズットナーは女性では初めてのノーベル平和賞の受賞者です。その『武器を捨てよ!』上・下巻は、当時の西欧諸国ではベストセラーとなりましたが、日本では2011年初めて日本語版が出版されました。私はウィーンに行く予定があり、その本の読後感や、質問など山根先生とやり取りをさせていただき中で、先生は「世界平和博物館ネットワーク」の理事をされていて、ウィーン平和博物館の創設者、リシュカ・プロジェクトさんを紹介していただきました。この博物館は、ズットナーの没後100年を記念し、リシュカさんによって昨年創設されたのだそうです。

オーストリア政府は、近年、核軍縮の部門では目覚ましい活躍で、世界をけん引しています。核保有国の、怠慢でやる気のない核軍縮政策にいたたまれず、熱心な国々とともに会議を開き、非核保有国の意見をまとめ、保有国にも参加を促し、参加国の数を年々増やしています。2014年12月のウィーン会議では、158か国となりました。オーストリアのその活力の源は一体何なのだろう? ずっと疑問でした。今回のウィーン訪問をきっかけに核事情を調べてみると、本当に感動ものでした!!

(次頁参照)

オーストリアには原発が一基も稼働していません。造りはしたものの、稼働した記録もありません。

1978年に行われた、原発稼働の是非を問う国民投票での僅差の勝利(50.47%が稼働反対)が、30年後の今日、素晴らしい平和の底力となり、ヨーロッパに国境を越えて訴える核軍縮運動にも成長していたのではないのでしょうか。中道左派・右派の政権党も頑張っています。クルツ氏は今28歳、EU諸国では最も若い外務大臣として注目を集めています。昨年12月、彼は、上記のウィーンで開かれた「核兵器の人的影響に関する国際会議」の開会総会で話をされ、クメント軍縮大使は、閉会総会の議長を務め、最後に力強く「核兵器廃絶を明確かつ鋭く」と呼びかけられたそうです。



ウィーン平和博物館はユニークです。「平和の窓」で平和活動家の足跡を展示し、観光客も道を歩きながら学ぶことが出来ます。ここに展示されている日本人は、佐々木禎子さんと小松昭夫氏そして元首相佐藤栄作氏の三人でした。当日は、2年前にアフガニスタンから移住された館長のサファさん、ロシア、フランスからのインターンシップ、イアナさんとサロメさん、そして40年以上のウィーン居住者、イップ・常子さんが暖かく対応してくださいました。贈呈した「福岡市原爆被害者の会」からの写真とサイン、折り紙作家、丸山さん作の連鶴も喜んでいただきました。それから1時間半交流し見学。友人の古賀さんが写真撮影。佐々木禎

子さんのご遺族が福岡県にお住いで行き来があることをお話しすると、四人ともに少々驚いた様子でした。

訪問そのものも素晴らしい思い出となりましたが、訪問前後の学習で、オーストリアの歴史の深さと、平和で安全な生活を手に入れるため、人々は“武器を捨てよ！核をすてよ！”と長年並々ならぬ努力をしてきたことを知りました。

私たちにも異形の苦難の歴史がありますが、オーストリアの貴重なこの30年の反核の歴史を、どうかお手本にできないものかと思いをはせています。

(石川 晶子)



ツヴェンテンドルフ原発跡地。ドイツの原発の研究などに使われている。09年に電力会社EVNが太陽光発電施設を建設した(写真手前)、バイオマス発電も計画中=写真提供:EVN

IAEA(国際原子力機関)の本部はウィーンにある。しかしオーストリアという国には、原発は1カ所もない。

この国では伝統的に水力発電が主流だ。2009年の総発電量68974ギガワット時の62,3%が水力で、33,9%が火力で、2,9%が風力・太陽光など再生可能エネルギー源で行われており、その他わずかな電力を輸入している。国民1人あたりの年間消費電力量は1569キロワット時(工業用を除く)。今後は再生可能エネルギーによる発電をさらに推進する方針だ。経済家庭青少年省が3月に提出した新法案では、この分野への設備投資に1億ユーロを追加拠出し、

輸入電力に頼らない、つまり間接的な原発依存から脱却する態勢を2015年までに確立する意向を明らかにしている。

2020年までには再生可能エネルギーの割合を電力消費量全体の34%にまで引き上げ、エネルギー効率を20%高め、同時に温室効果ガス排出量を大幅に引き下げることが目標だ。とはいえ、オーストリアでも、これまでに他国のような原発建設の動きがなかったわけではない。

1960年代以降、政府と電力業界では原子力発電の経済性に着目して原発建設への機運が高まり、71年には原子力発電の導入を決定、翌年ニーダーエスタライヒ州ツヴェンテンドルフ村に同国初の原子力発電所が着工された。76年にはさらに国内3カ所で原発が計画され、原子力を軸としたエネルギー政策への転換は着々と進んでいた。

しかし、78年11月、完成していた原発1号機の稼働開始の可否を問う国民投票で、「反対」が50,47%で過半数を獲得、これに従って稼働が見送られたのである。保守派野党による反対キャンペーンも功を奏したが、それ以上に、国内はもちろん世界的に反核とエコロジーの市民運動が盛り上がっていたことが大きい。真新しいツヴェンテンドルフ原発は、その日から潔く“眠り姫”となった。翌年にはスリーマイル島原発事故が起こっている。ツヴェンテンドルフ原発の総工費は90億オーストリアシリング(約6億5000万ユーロ)。今日までの維持費総額は約10億ユーロに上るといふ。既に採用されていた約200人の従業員は国内の火力発電所やドイツの原発へと転職していき、搬入済みだった核燃料は80年代までかけてすべて搬出した。

思わぬ方向転換を強いられた電力業界は、79年から88年にかけて急きょ5カ所の火力発電所を国内に増設、需要増に対応した。その後の99年、連邦憲法律に「オーストリアで核兵器を製造したり、保有したり、実験したり、輸送したりすることは許されない。原子力発電所を建設してはならず、建設した場合にはこれを稼働させてはならない」の項が盛り込まれ、反核の誓いは不動のものとなったのである。



インホルト・ミッテルレーナー経済家庭青少年省大臣 = Foto: Georges Schneider

こうした歴史をもつオーストリアが、福島原発事故以降、世界に対して積極的に反核発言をしているのは当然だろう。事故後すぐに、経済家庭青少年省のラインホルト・ミッテルレーナー大臣は強い調子でコメントを発表した。

「日本の原発事故は、原子力発電が決して安全で持続的な発電手段でないことを露呈した。この脅威に対する正しい答えはただひとつ、原発の撤廃である。それがすぐに実現できないなら、しかるべき安全措置が講じられるべきだ。オーストリアはEU内の原発に対する“ストレス・テスト”と、その結果の公表を要請する」

ストレス・テストとは、天災やテロを想定した原発の耐性審査である。EUの原発

保有国は14カ国、圏内には計143カ所の原発がある。オーストリア1国が核を廃絶しても、陸続きの近隣国で事故が起こればお手上げなのだ。

3月24・25日の両日に開かれたEUサミットでは前日にヴェルナー・ファイマン首相が現地入りし、テストだけでなく加盟国の“脱原発促進”も議題に盛り込むよう、バロゾ欧州委員会委員長に直接働きかけた。これは実現しなかったが、サミットの協議では加盟国がストレス・テスト導入で合意。6月末までにテストの実施条件と対象範囲を策定し、今年末までに各国で実施、結果を公表することが決まっている。しかし、英国やフランスなどの強い抵抗もあり、実際にはテストは義務でなく各国の任意で実施され、テストをクリアしなかった原発への対処も未決定となっている。原発の建設と運営は基本的に加盟国各自の判断とされており、EUは現時点では顧問的な役割にとどまっているにすぎない。

しかし、ファイマン首相は「ヨーロッパで原発技術のリスクを公にすることは、許容されるだけでなく、市民が望んでいることでもある」と強調。今後も欧州委員会だけでなくユーラトム（欧州原子力共同体）などを通じ、積極的にEUおよびヨーロッパでの反核運動を推進する意欲を新たにしている。

かつて原発1号機に「反対」を唱えた、すれすれの過半数。辛うじての選択が30年後のいま、当時国民が想像した以上の重みをもってオーストリアの国政を支えるだけでなく、国境を超えたヨーロッパ全土の反核活動を後押ししている。

出典： グローバル・プレス 田中 聖香  
『原発ゼロ オーストリアの選択』

2011年 3月29日

## 写真展 『福島 FUKUSHIMA 土と生きる』

東電福島第一原発の事故が起こってから私が福島を訪れたのは、1 か月半余り過ぎた5月上旬でした。そのころの東京は節電で照明を落としていました。それだけに福島の街に煌々と灯りがついているのを見て、オヤ？ こんなに明るくていいの・・・ああそうか、ここは東京電力ではなくて、東北電力なんだ、福島の人たちは使用していない原発にやられたんだ・・・と思いました。今でもそのことを重く感じています。

それから1年半、あちらこちらを訪ね多くの人たちにお会いして、福島の人たちはとても花が好きなんだと感激しました。花を愛でるということは、気持ちが優しいということに他なりません。そして花々ばかりか、田や畑、森も大切にしています。丹念に作物を栽培し、畜産業にも精を出す。太陽を上手に生かし、土と水、風を工夫する。ところが突然、ふるさとには放射能に汚染されてしまいました。それでも祖先から受け継いだ土地を守ろうとする必死の思いが伝わってきます。被災し、ふるさとを奪われた人びとが見舞われたこのように理不尽な事態に胸がえぐられる思いです。一人ひとりと向き合いながら、土地のこと、歴史的なこと、そして将来の見通し、家族や若者、子どもたち、まだ生まれていない子どもたち・・・と、あれこれ考えると、何という不条理なことがふりかかったのかと暗澹となります。

私たちはだれもが土と共に生きています。土がなければ人類の存続さえもかなり難しくなるでしょう。そして、結局は土へと返っていきます。なかでも農に携わる人たちにとっての土は、生きる原点そのものです。半永久的な核に汚染された大地は、余程、科学が発達しない限り、私たちの人生よりも長い間にわたって放射性物質を消すことができないでしょう。

染みついた放射能にあらがい格闘を続ける福島の人たちと問題を共有し合うことの大切さを、今、改めて思います。

福島の人たちが心置きなく花に気持ちを寄せられる時が来ることを願っています。

大石芳野 (写真家)

### NPO 法人「被爆者の声」

<http://www.geocities.jp/s20hibaku/>  
被爆者の方々の声を収録したもので、英語版もあります。

### DVD: Atomic Mom の紹介 (日本語版あり)

1950年代原爆開発の仕事に青春を賭けた一人の女性科学者。何十年も後、良心の呵責に苛まれた母の告白を記録する映画監督である娘。自分が知らずのうちに犯した罪の許しを請う母に救いの手を差し伸べる広島被爆者。『アトミックママ』は原爆に人生を左右された人間の現在を描くドキュメンタリー映画です。詳細は下記のHPにあります。

<http://www.atomicmom.org/jp/trailer.htm>

### 平和のための博物館国際ネットワーク 海外博物館情報へのアクセス

海外における平和のための博物館のニュースは、「平和のための博物館国際ネットワーク」(INMP) 通信の日本語版で読むことができます。2015年5月発行の通信は、次のHPを開いてみて下さい。

[http://www.museumsforpeace.org/attachments/article/42/INMP\\_Newsletter\\_11\\_Japanese\\_2015\\_.pdf](http://www.museumsforpeace.org/attachments/article/42/INMP_Newsletter_11_Japanese_2015_.pdf)

**2015年10月24・25日、ピースあいちで第14回平和のための博物館市民ネットワーク全国交流会が開催されましたが、詳細は次号でお知らせします。**